「いやな思ひをしてお金をお借りしました。それにつけてもお前は、一日も早く立派な人になつて下さい」

歸りがけに彼の母は正直に彼に斯う打明けた。そして其の眼には涙が一杯溜つてゐた。彼は過ぎし夜のことを思ひ出した。感激性の強い彼の眼からは玉のやうな涙が流れた。

「お母さん！　僕きつと偉いものになつて孝行を盡しますよ」

母子は堅く手を握り合つて別れた。それから彼は學業を擲つて、實業をもつて身を立てようと決心した。

「下駄の鼻緒を拵へたお母さんに、借金までさせてはならぬ」

と、決然澁澤家を辭して王子製紙會社に雇はれ、月給五圓で機械の繪圖を寫す仕事をした。そして一ケ月を無事に勤めて、初めて貰つた月給五圓を母親のところに行つて差出した時、彼の母はどんなに喜んだことだらう。

その後彼は自ら請うて職工となつた。そしていつの間にか、外國人の技師だけが爲し得る紙漉機械の操縱を覺えてしまつた。覺えて見ると機械と云ふものに興味が持てるやうになり、どれもこれも扱つて見たいといふ慾が出て來た。然し外國語の讀めない彼にはそれが出來なかつた。彼は古い辭書を買つて來て克明に外國の本を讀み始めた。而も一つ一つ辭書を繰つて征服して行くといふ遣方である。さうした熱心は遂に會社に無くてはならない優良職工となつた。

だから今日でも「大川の古字引」と云ふ一つ話さへ殘つて居る。そんな譯で、月給も七圓になり、十圓になり、十五圓に昇つた。それをそつくり母親のもとへ差出して彼女を喜ばせた。

二十二歳の時、彼は王子製紙から米國留學を命ぜられた。其れ以來彼の好運はトントン拍子に拓けて、遂に今日の大なる大川平三郎氏となつたのである。彼は今でも、ともすると心に綾の出ようとする時に、彼の母が眞夜中に鼻緒を拵へた時代を思ひ出して自分を戒めるのである。

「薄暗い行燈に照されて鼻緒をつくつてゐた痛々しい母の姿が今でも眼に見えるやうです」

——と。

死んだ氣になつて盛り返す

世界大戰を背景として生れた船成金山下龜三郎氏は、一時其の富八千萬圓と稱せられ全日本人の羨望の的となつてゐた。

少年の頃の目的は偉い學者――法律家となる事であつた。然し、上京して勉強して見ると、自分自身は學問の畑の人間でないことが判つた。

「俺は學問の方は全く駄目だつたよ」

と、往年を追想して斯う云つてゐる。それで逸早く學問には見切をつけて、實業界へ突入したのである。

明治廿九年に資本金千五百圓で石炭商を開いて、同三十七八年の日露戰役に百五十萬圓を儲けた。が、其成金の夢も束の間、明治四十年のガラを食つて忽ちのうちに全部を吐出し、其上反對に百三十八萬圓といふ大きな借金が殘つた。

根が豪放磊落の山下氏であつたが、流石に此時は奈落の底に突落されたも同樣、再び起ち直ることが不可能だと觀念した。

「よし、死んでやる！　死ねば萬事休すだ」

幾度か死を決してフラフラと家を出て、鐵道線路を彷徨つたこともあつた。覺悟してレールの上に冷たい血を震はしたことも何度かあつた。

「莫迦ツ、死を覺悟すれば何だつて出來ないことがあるものか」

別な彼の心の一角から斯う叫ぶものがあつた。然し彼にはもう再起の氣力も盡き果ててゐた。自ら運命の終だと觀念してゐたのであつた。

或日、彼は開店以來の股肱の店員數名を招いて、再興に關する相談會を開いた。彼は此結果によつて愈〻死を決行しようと決めてゐた。

店員の誰もが云つた。

「ここでヘタばつちや、あなたの男が廢ります。我々は一致協力して努力します。死をも厭ひません。斷じて衰運を挽回しなくちやなりません」

言々句々、肺肝を衝いて出る彼等の誠意に山下氏は泣いて喜んだ。無論、彼等も泣いた。

「ありがたう。實は俺は死ぬ決心をしてゐたのだ。諸君がそれまでに此の山下を思つてくれるなら、茲で死を思ひ止つて、もう一度艱難を共にしよう」

死を思ひ止つて、彼は再生の意氣で先づ借金の償却案を樹てた。これが有名な十五ケ年賦菱形返濟法と名づくる山下氏獨特の案である。案は幸ひに債權者の承諾を得た。

然し、借金の方はそれでよいとして、今後の事業は、今の山下にしては空拳で切廻すことは出來なくなつた。謂はば、資金の融通を受ける途が杜絶えて了つたので、心だけは如何に焦燥つても、何うにも仕樣が無かつた。

彼は又生と死とを考へた。そして思案に餘つて一日大倉喜八郎翁を靈南坂の自邸に訪問した。無論財政上の援助を仰ぐ考であつた。月の明い晩で、奥まつた日本室で翁はビールを出し、夕飯を出して打寛いで話した。堂々たる邸宅、華麗なる室内裝飾、結構を盡した庭園、それは無限の憂愁を祕めてゐる山下氏の胸に云ひ知れぬ大なるショックを與へた。覺えず、

「立派なものだ。一日でも斯ういふお身分になりたい」

と、獨語のやうに口を衝いて出た。すると翁は言下に、

「いつでも君と代つてあげよう。その代り何にも要らんが君の年齡を俺にくれ給へ」

と、哄笑した。

當時翁は七十一歳、山下氏は四十一歳。山下氏は電氣で彈かれたやうに言つた。

「生れ變つた心持でやつて見ませう」

何もかにも新規蒔直しに、彼は遂に八千萬圓の巨富を摑んだのである。

勞力の安賣に着眼した青年

「勞力を安く賣れ」

甲州財閥の巨人若尾逸平翁の處世の金科玉條は此れであつた。

「商品を安く賣れば、その店には自然に顧客が集つて商賣が繁昌する。使はれる人も勞力を安く賣れば、主人が特に眼をかけるやうになる。それが否應なしに、その人を出世へと導くのだ」

彼はいつも斯う云つて若い人たちを訓戒してゐた。

この若尾翁の店に、未だ十三になつたばかりの可愛い顏をした小僧さんがゐた。健康で、氣輕で、そして勤勉で、いつもニコニコと愉快げに働き、そして頭腦のいい、それは眞個「勞力を安

く賣れ」の權化ともいふべき小僧さんであつた。從つて朋輩にも客にも愛せられた。わけて主人の逸平翁は、又無き者として之を愛した。

彼は心から商賣其物が好きであつた。それだけに熱心であつた。そしてどこか大きいところがあつた。長ずるに從つて益〻「勞力を安く」賣つた。骨惜みをせずに働いた。

斯くて十七年間を若尾商店に勤めた。二十九といふ歳になつて初めて自分の周圍を眺めた。自分と同年輩の小學校友達は、みんな一軒の主人となつてゐるではないか。細君を持つてお父さんになつてゐるではないか。

「自分は？」

彼は自らを顧みた。そこに商人としての遠い遠い前途が橫つてゐる。

「俺はいつ迄も斯うしてはゐられない」

彼は今更のやうに驚いて若尾商店から暇を貰つた。逸平翁は彼に三千圓の慰勞金を贈つた。時恰も日清戰爭が始つて諸株が暴落したので、翁に相談の上、その三千圓で東京馬車鐵道の株を買入れた。

それから、彼自身は、

「將來有價證券の賣買が漸次盛になる」

といふ觀測の下に、彼は二年間、或株式仲買店の見習をやつて、そして初めて獨立の仲買人となつた。恰度此の時、曩に買入れて置いた三千圓の馬車鐵道株が騰貴して三萬圓近くなつてゐたので、この金で誰の世話にもならず商賣を始めることが出來た。

「俺の過去も今日も、勞力を安く賣つてゐるといふだけで、何等の波瀾も、曲折もなく、平々凡々です」

と、彼は言つてゐる。それだけ彼の營業方針は堅實そのものであつた。よく株式仲買人にありがちの、手張りはせず、思惑をせず、顧客本位に專ら仲買人としての職分を忠實に盡すのみであつた。

「そりあ目先株價の騰ることが判然分ることがありますね。ここでウンと買ひ煽つたら、一擧に百萬圓や二百萬圓は握ることが出來るがな——と、ウツカリ誘惑されようとすることがありますねっ。然し、俺はぢつとそれを堪へて來ました。人間の觀測ですもの、それが反對に行つたらと思

ふと、矢張り手出しが出來ませんでした。勞力を安く賣れ！　と、子供の時分から若尾さんに訓戒されてゐました。俺はいつも心の迷が出るごとに、此の金言を繰返して、商賣大切に勵みました」

これも彼の處世談の一片である。

彼とは誰であらう。

後年小池銀行頭取、東京瓦斯會社社長、東京株式取引所理事、東京電燈、東洋モスリン、九州炭鑛、イーシー工業、武藏鐵道の各取締役、若尾銀行、富士製紙の各監査役等々と、財界一方の巨人として重きを置かれるに至つた故小池國三氏その人である。

知遇に感激する一點張で成功

慶應義塾を卒業して米國へ行き、桑港で日本の醬油を賣り弘めようとして失敗した武藤山治氏は、今日でも、ともすると其の思出話をして、あの謹嚴な顏の造作を崩すことがある。

「一時は賣れたんだよ。そりあ迚も素晴しい勢で賣れたんで、學校を出たばかりの俺は嬉しさに有頂天になつたものさ。ところが、それが急に賣れなくなつた。その原因を調査して見ると實に滑稽な譯さ。最初賣れたのは其の容器の德利が珍しいといふので、醬油はまるで捨てゝもたものなのだ。その德利を一輪挿し代りに、暖爐の上に、事務室の卓上にといふやうに飾つて喜んだものだが、それが米人の家庭に一通り行き亙ると最う必要がなくなる譯で、從つて醬油が賣れなくなつたといふ譯でね、イヤ飛んだ失敗でしたよ」

と、哄笑するのであつた。

それから日本へ歸つて廣告取次業を始める。外字新聞の記者をやる。外國商會の飜譯係を勤める——斯うしたルンペン生活が可なり長く續いて、煩悶と焦燥の日とを送つてゐた。

月並の形容詞だが、蛟龍も雲霧を得ざれば、天に昇ることが出來ず、英俊の士も伯樂に遇はざれば、驥足を伸ばすに由がない、といつたやうに、武藤氏も有爲の才能を抱いて空しく天下の形勢を狙つてゐた。然し、囊中の錐はいつかは頴脫するが如く、俊才にはいつかは世に出づる好運が惠まれる。

それは、我國に於ける最も古い富豪の一人として今日も時めいてゐる三井家が、維新以後各種事業に手を擴げた際、經營者に適材がなく、失敗に次ぐに失敗に、流石の大廈も將に崩れんとした危機に襲はれたことがあつた。そこで三井の後見役であつた井上侯は、當時財界の奇傑として名聲高き山陽鐵道社長の中上川彦次郎氏を起用して三井家の大番頭たらしめ、彼の思ふさま大改革の手腕を揮はしめた。

武藤氏の先輩であり、恩人である岡本貞烋氏は武藤氏に云うた。

「武藤君、君に素晴しい人物を紹介しよう。君が千里の駿足であるとすれば、彼は必ず伯樂としての天分を發揮するよ」

と、右の中上川氏への紹介狀をくれたのであつた。武藤氏は岡本氏の謎のやうな言葉を聽いて人知れず喜んだ。

「ハイ、伯樂を失望させたくないと思つてをります」

此の自信のある言葉を酬いて、岡本氏の紹介で中上川氏に面謁した。中上川氏は一見して武藤氏の非凡の才器を看取して三井銀行に入れたのである。それ以來の武藤氏は、彼が岡本氏に誓つた如く伯樂を失望させなかつた。間もなく拔擢されて鐘ヶ淵紡績會社が神戸に分工場を新設すると同時に、氏は其の支配人として鐘紡に入つたのである。これ氏が今日の成功を贏ち得るに至つた第一歩である。鐘紡は當時三井系の會社で社長は中上川、專務は朝吹英二、和田豐治は東京の支配人であつたが、其の後鐘紡の事業は武藤氏一個人の掌裡のものとなつたので、自ら神戸の工場にあつて全工場を指揮し、爾來一人一業を標榜し、側目もふらず鐘紡の經營に苦心慘澹して遂に今日の大鐘紡を築きあげたのである。

「鐘紡の苦しかつた時に三菱銀行から三萬圓の金を借りたことがある。其の時貸附係から二時間の講釋を聽かされたが、俺は此の時、つくづく今後は斷じて銀行家の前に腰を屈しない。——といふ決心を固めた。この男の意氣地が、今日ある所以の一だと思ふ」

と、語つてゐる。彼は今、功成つて鐘紡を退き、餘生を國民同志會會長として政界に立ち、混濁せる政界の廓清に努めんとして最善の努力を拂つてゐる。

機會を攫んで力一ぱいに働く

實業界の巨星として重きを置かれてゐる藤山雷太氏も、故中上川彦次郎氏の手引に依つて實業界へ入つた一人で、そして大に成功した一人でもある。

三井銀行を振出しに、芝浦製作所、王子製紙、東京市街鐵道等、孰れも其の實際の責任者として亂麻を斷つの手腕を揮ひ、會社を窮地より救つて今日あらしめた功勞者である。然し、それらは藤山氏にとつては牛刀鷄を裂くの類で、大した手應のある仕事でなかつた。彼をして眞に、彼の技倆を發揮せしめた一代の事業は、所謂日糖整理で、その功勳は長く財界に特筆大書さるべきものである。

それは彼の四十七歳の時である。時は明治四十一年末。大日本製糖株式會社は、內地糖業統一と官營運動とを目標として大々的活動をしたが、それは見んごと失敗に歸し、戰後財界の不振と相俟つて會社は遂に破産の危機に瀕したのである。同社は資本金一千萬圓、拂込金七百五十萬圓に對し、負債は一千四百餘萬圓の巨額に達し、殆んど整理の手段も方法も盡きた有樣であつた。之が爲めに社長酒勾常明氏は責を負うて悲慘なるピストル自殺を遂げ、專務以下囹圄の人となつた者數人、財界空前の醜態を暴露した事件である。

當時、日糖の相談役であつた澁澤子爵は、この難局を處理する適任者として白羽の矢を立てたのが藤山雷太氏であつた。

「あんたに一つ整理をやつて貰ひたいが何うだらう。何しろ株主の中には外國人も多くゐるから、ここでペシヤンコになつてはね、鹿爪らしく言へば國家の榮辱にも關する大問題ともいふべきもの、マアこの親爺が賴む」

と、口說落さうとしたが、藤山氏は固辭して受けなかつた。

「王子製紙と違つて舞臺が大き過ぎますから……。折角お受けしても、閣下の御期待に背くやうな結果を見ましては申譯がありませんから。此の度だけは……」

王子製紙の整理發展は、當時社長たりし澁澤子の勸誘に應じたもので、澁澤子は深く藤山氏の手腕に信賴してゐたのであつた。

「イヤ、あんたなら大丈夫、今度は双肌脱いでやつて貰ひたい」

と、頻に勧められたので、藤山氏は其の知遇の恩に感じ、遂に成敗利鈍を度外に措き、澁澤子に承諾の旨を回答したのである。

「閣下、私は國家工業の興廢の爲めに、お言葉に從ひませう」

「これで私の重荷が下りました。私も及ばずながらお力になる。イヤ、あんたなら大丈夫です」

と、又も信頼の言葉を繰返して、藤山氏の悲壯なる決心を喜び且つ感謝した。

流石に澁澤子爵の眼鏡に曇りは無かつた。藤山氏は決死的の努力を以て着々として整理の効果を擧げ、遂に大正八年十一月迄に全部の負債を償還し、尚ほ利息金をも加ふれば千八百二萬五千圓の巨額を支拂つたのである。一方株主に對して最初十年間無配當を約したのが、三年目から五分の配當をなし、大正八年の上半期の好況時代には五割の配當をした位である。斯くて完全に日糖會社は整理せられ、藤山氏は一躍實業界の巨星として許されるに至つた。當時阪谷男が左のやうな狂歌を贈つて、氏の苦心を慰めたといふことである。

ふじ山の高きにまさる困難も
　日糖笑つてよくもこ雷太
それからの藤山氏は語るも蛇足である。

親孝行の一念で成功を収める

何うしても暮の途がつきかねて、父と離れ離れになつて質屋の丁稚となつたのは、彼の十三の時であつた。それから五年といふ淋しい哀しい月日が流れた。

天性商才に富み、そして勤勉である彼は、仕事の閑を見ては書物を讀み、字を習ふことを忘れなかつた。主人夫婦もよく目をかけて劬つてくれるので、彼は斯うした今日の境遇を幸福であると感じて、人一倍主人の爲めに陰日向なく立働いた。

それにつけても、始終思ひ出されるのは父の身の上であつた。

「お父さんはどうしてゐるだらう。逢ひたいな」

と、思ふと矢も楯も堪らなくなるのであつた。眼頭が急に熱くなつたと思ふと、熱い涙が止め

どなく兩の頰へ流れるのであつた。

「生きてゐるだらうか、年老いた身を可哀さうに、どこかに働いてゐるのだらうか」

斯うして思ひ續けると、別れた日の父のみすぼらしい姿が、ありありと眼に浮ぶのであつた。

岐阜縣の草深い田舍で百姓をしてゐたことや、母が死んで生活にも困り、父子で東京へ出て來たことや、東京でも暮に困つて氷水を賣つたり、いなり鮨を賣つたりしてゐた父の姿が、螺旋のやうにチラチラと彼の網膜に映るのであつた。

「そのうちにお金を儲けてお前を幸福にしてやるぞ」

と、口癖のやうに云つてゐた父が、彼と生別するときに、大粒の淚が瀧のやうにその顏面を傳うてゐたのであつた。彼も悲しさに淚が一杯であつた。

彼は息詰まるやうな當時の光景を思ひ出しては父を偲んでゐた。別れて一二年の間は手紙も來た。偶には會ひにも來てくれた。それきり分らなくなつて了つた。

彼は父の働き先を次から次へと訊ねて廻つたこともあつた。

「淺野つて回漕問屋にゐるつて話だよ」

そんなことを敎へて呉れた人があつた。この廻漕問屋は東洋汽船の前身で、淺野總一郎翁の經營してゐたものである。彼は飛び立つばかりの嬉しさをヂツと抑へて、或日、日本橋蠣殼町の店先へ行つて、働いてゐる人夫の一人々々に目をつけたのであつた。

「アツお父さんだ！」

と、叫ぶと、いきなり一人の人夫の後から抱きついて。

「お父さん！」

と、呼んだのであつた。

「オオ吾市か」

父子は相抱いて、嬉し泣に泣きじやくるのみであつた。そして、その喜びの興奮が鎭まつて來ると、別れてから廻り合ふまでの切ない心と心とから湧き出づる物語が、滾々として盡きないのであつた。店の人たちも思はず貰ひ泣きをしたものであつた。

斯うした小說のやうな話が淺野翁の同情を買ひ、彼は父と共に回漕店に働くことを許された。

父子は一生懸命に働いた。彼は。

「お父さんを早く幸福にしてあげよう」

と、心に誓つて骨身を惜しまずに働いた。それから間もなく、彼は淺野侯の命により、翁が横濱で二萬圓で買つた四千噸の石炭を門司に回漕して、その全部を賣り盡し、二萬圓の利益を得て歸つたので、直に拔擢されて淺野の石炭部長となつた。そして彼は次第に父を幸福にすることが出來た。

吾市？、それは今日の茨城採炭會社長阿部吾一氏で、彼は此の他幾多の會社を經營してゐることは、それは讀者の既に御存のことと思ふ。

病弱が身の幸になつた話

少年武智は漸つと憧憬の慶應義塾へ入學するやうになつたので、それこそ天にも昇る樂しい心持で、毎日喜び勇んで塾へ通つてゐた。

「僕たちは福澤大先生に教はつてゐるんだ」

こんな誇が彼の小さな胸一ぱいになつてゐた。只そのことだけでも、慶應へ入つたことが嬉しかつた。それは明治の大先覺者、大教育家である福澤先生は、當時の若い人たちの崇拜の大きな的となつてゐたのである。

然し、性來餘り健康でなかつた彼は、彼の兩親が健康增進に細心の注意を拂つて來たにも拘らず、其割合に効果を奏せず、いつも少年らしい元氣の無い、弱々しい身體の持主なのであつた。

彼が十六歳の時、遂に彼の健康は彼の勉學を許さなくなつた。

「暫く學校を休んで靜養なすつた方が宜しいでせう」

その頃、今の布哇は舊王朝の獨立國時代であつたので、同國からロベルト・アルウヰンといふ人が布哇王國の全權公使として日本に駐在してゐた。その公使の夫人が武智家の緣家續となつてゐた關係上、武智少年は早くから布哇公使館に出入し、アルウヰン公使からも深く愛せられてゐた。

「布哇は太平洋上のパラダイスだ。氣候は良し產物は多い。一度遊びにお出で、いいところを見せてあげよう。お前さんの健康にも屹度宜いよ」

彼は時折アルウォン公使から聞かされたことを思ひ出して、少年の獵奇心から一層のこと布哇へでも行つて見ようかといふ衝動に驅られるのであつた。アルウォン公使に訊いてみると、

「お出でなさい。布哇は世界の健康地とさへ讃へられてゐるところだから、君の病弱な身體も直に健康體となるでせう。教育も進歩してゐるから勉強も出來るでせう」

と、云ふのであつた。彼は矢も楯も堪らなくなつた。早速兩親に乞うて其許を受けて慶應義塾を中途退學し、其の年健氣にも只一人、懐しい母國を後に、千里の波濤を蹴つて布哇へ渡航したのであつた。

空想と希望とに生くる少年時代の彼には、布哇の文物はどれもこれも驚異と感嘆に値するものばかりであつた。輪奐の美をつくした洋式の大建築、整つた男女の服裝、美しい乘用馬車、珍しい熱帶植物等々、何一つとして彼の好奇心を滿さないものはなかつた。彼は布哇へ來たことを心から喜んだ。そして千里の異鄕へ遊學したといふことだけでも、彼にとつては一つの小さい誇りであつた。

學校は先づ中學程度のパナホフ・スクールへ入學した。彼の新しい氣分と、氣候風土の適順とで病弱な身體がメキメキと回復して、自ら勉強にも專念することが出來るやうになつた。そのうち學校は暑中休暇となつた。如何に聰明な彼であつても未だ十六歳の少年である。遠く父母の膝下を離れて異國に獨り勉學してゐては、年に一度故國に歸省するのが最大の樂しみであるに違ひはない。然し彼は考へた。

「僕の布哇留學は氣候適順なる此の土地で健康を恢復せんが爲である。今僅にして歸省しても又元の病弱に戻つて了ふだらう。我慢をしよう、このまま布哇に踏み留ることにしよう」

と、決心した。と次に、

「この長い暑中休暇を何うして暮らしたらよいか」——を考へた。

その結果、布哇唯一の大産業である甘蔗の栽培並に製糖業の實況視察を企てて大に得るところがあつた。

明治三十三年日本で最初の分蜜製糖會社である臺灣製糖株式會社が創立された。その發起人の一人なる武智直道氏はこの往年の武智少年である。昭和二年彼は四代目の社長として就任し、今や本邦糖業界の第一人者として盛名を馳せてゐる。

コンミッションを公開した男

大倉王國の第二世、喜七郎氏の夫人は、舊藩主溝口伯爵の令妹である。卽ち今の喜美子夫人であるが、その結婚披露式は流石に日本の大長者大倉だけに、善美を盡した素晴しい盛大なものであつた。

その席上で喜七郎氏は、新夫人に一人の重役を紹介した。それは王國の總理大臣である門野重九郎氏であつた。そして、紹介の言葉のあとへ、

「俺はこの方だけには頭は上らぬ……」

と、附け加へたといふエピソードが傳へられてゐる。門野氏は曾に大倉王國の大なる功勞者でそして大黑柱であるといふのみならず、喜七郎氏の人と爲りの師傅役でもあり、且つ個人としても高潔なる人格と卓越した識見の所有者でもあるので、喜七郎氏は心から門野氏に敬意を拂ひ、主從の關係を離れて彼を重用し、彼に傾聽してゐるのである。

彼は明治二十四年の帝大土木科出身である。卒業後直に米國に航し、彼地の大學で新興土木工業の蘊奥と實際を研究して歸朝し、直ちに山陽鐵道の技師に聘せられた。それから一年にして大倉組に入社し、間もなく倫敦支店長に拔擢されたのである。

それは日淸戰役後であつた。大倉王國の創立者たる故大倉喜八郎翁が、戰後の財界に一大飛躍を試むべく、歐米視察の途に上つた。その途次、翁は倫敦の大倉組支店へ立ち寄つた。時の支店長は門野重九郎氏であつた。

支店長はもとより、支店員は大喜びであつた。萬里の異鄕に於て、自分たちの仕へてゐる君主を迎へるのである。まつたく、手の舞ひ足の踏みどころも忘れる位に歡喜したのであつた。

彼、支店長は翁を導いて支店內の各室に案內して、社員の熱心なる執務振を見せた。

「どこもよく綺麗に整頓してゐる」

翁は先づ社內の秩序整然たるを褒め、塵一つない淸潔さを賞した。そして次に、

「みんなが勤勉です、ご苦勞です」

翁の顏には感謝の色が浮動した。そしてニコニコしながら彼門野氏を顧みて

「マア大いにやつて下さい。その内今一段と雄飛の時が來るでせうから、その方の準備も十分しておいて下さい」

と、翁は頗る滿悅であつた。

「いま一つ、頭取さんに觀て頂くものがあります」

と、彼は翁を一つの新しい大きな金庫の前へ案内し、その扉を開いて珍しい構造や裝置を說明して翁の好奇心を唆つた。と、やがて彼は金庫の中から、一束の新しい紙幣を取り出して翁に示した。

「それは？」

翁は訊いた。

「これは當地の取引商人から寄越したコンミッションです。取引に對するプレセントとして普通なら私のポツケツトへ入れる性質の金ですが、私は主義として斯うした金を私することを好みません。當然會社の收入であると考へまして、この金庫の中へ仕舞ひ込んで置きましたのです」

彼は微笑みながら答へた。

「フーム、幾許ありますか」

翁は重ねて訊いた。

「五萬圓あります」

彼は答へた。

「それは近頃感心なお心掛けです。いつ迄もその心持でやつて下さい。いつまでも……」

翁は、かう答へながら彼の顏を見あげた。その兩の瞳には異樣の輝きがあつた。

それ以來、翁の頭腦の中に彼の顏が大きく描かれるやうになつた。そして彼は遂に大倉王國の總理大臣となつた。

頭で足りねば身體で補ふ方針

三菱合資會社の地所部長赤星隆治氏は明治三十四年の東京帝大法科の出身で、時に年二十八歲であつた。

友人の多くは官界入りをした。著しい官尊民卑の時代であつた當時に於て、それは官學を出たものの當然の進むべき路であるかのやうに思はれてゐた。同時にそれが容易のことであり、又立身出世の捷徑でもあつた。

しかし、彼は考へた。

「俺は同級の誰彼と違つて一番のボンクラだつた。だから頭腦を働かせて出世しようなんていふことは不可能だ。今の俺にはこの健康體が身上だ。この健康を以て奉公の誠を捧げたら或は人並の出世もできよう。

彼は、かくて官界入りを斷念した。そして民間實業界に入り、コツコツと自分の進路を開拓しようと決心した。

それから數日後、三菱に社員募集があつた。彼は好機逸すべからずとして應募した。銓考委員は一々應募者を引見して人物に對するメンタルテストを行つた。彼の順が來た。

「履歷書を見ると君は大學卒業者ですね。學校からの紹介があれば特別採用の途もあるやうですが……」

と、委員は彼の顏を見ながら云つた。

「ハイ、貰へば貰へるのですが、僕は自分の實力を買つて頂きたいと思つてゐますから、その必要を認めませんでした」

と、彼はきつぱりと答へた。

「今度の募集は重に下級社員ですから、君には向かないでせう」

「いいえ、どんな仕事でもやります。僕は人に賴らず、與へられた仕事を眞面目にやつて僕自身の進路を開きたいのです。それで使つて頂いてお役に立たなかつたら何時でも辭めます。ただ僕の實力だけを買つて頂けば結構なのです」

銓考委員は彼の誠遜と眞劍と熱誠なる態度に動かされて直に彼を採用した。地所部員——上役から命ぜられるがままに、帳簿の記入や、往復文書の作成や、繪圖面の寫しやを彼は丹念にやつた。時には工事場へ出て黃塵を浴びつつ土工の監督をもやつた。しかし、彼には少しも不平はなかつた。

それでも、彼は人並の若い榮ある學士である。同級生の華々しい官界入りを見ると、一人殘さ

れたやうな淋しさに捉はれることもあつた。と、彼はいつでも父の教訓を思ひ出すのであつた。

「親の眼から見てお前はボンクラだ。お前のやうな性質のものは、一つの仕事を一生懸命に守つて脇見をせずに進むがよい。そしてどんな仕事でも興へられたものは最善の努力を盡さねばならぬ。獅子は兎を打つにも渾身の力をあげて打つといふではないか。この心得で奉公したら、遂には必ず、お前がゐなくて困るといふやうな、必要缺くべからざる人間になる。そこにお前の立身出世があるのだ」

これが、彼の父の戒めであつた。

「まつたく俺はボンクラだ。子を見ること親に如かずだ。俺は天下の三菱に入つたのだから、ここで一生踏張つてやつて行かう」

かうした決心は彼に明日の新しい希望と努力とを興へた。彼は毎日營々として、孜々として、興へられた仕事に、最善の努力を盡して他を顧みなかつた。

當時の地所部長は桐島像一氏であつた。流石に三菱の大黒柱となる人だけに。よく人を見るの明があつた。彼の人格と手腕とが遂に桐島部長の知るところとなつた。

そして、いつか彼は、地所部にゐなくては困るといふ必要な人物となつたのである。

破産に瀕した會社を起した人

保險界の第一人者である東京海上保險會社社長各務謙吉氏が、先年郵船會社社長に就任した當時、彼の親友である福澤桃介氏が、或る雜誌に彼の人物觀を載せ。その中にこんなことを言つてゐた。

「曩に、お望みとあらば各務の尻の穴の毛が何本あるかまで取調べてお話ができるといつた所が或る讀者から、何本あるか調べて貰ひたいといふ葉書に接した。早速各務に問合せたところ、彼いふには、先年痔疾を患つて、其治療の爲めに尻の穴の毛を全部抜き取られて今では一本も無いとのことだが、私の觀測する處では、サウであるまい。實は、此の頃岩崎小彌太のオダテに乘つて、ついウカウカと郵船會社の社長になつた爲めだらう」

と、福桃氏一流の皮肉を浴びせてゐる。福桃氏が何故こんな憎まれ口を叩いたのか。それは彼

各務氏が過去に於て一人一業主義を標榜し、忠實に之を實行して來たのを、後年遂にその主張を裏切つて郵船會社の社長を兼任したのを諷したのであるまいか。

それ程、各務氏は過去の三十八年、一業主義を履行して脇目もふらずに一つの仕事を守り立てて來た。一つの仕事――それは東京海上保險會社をして今日の大をなさしめたことである。

彼の東京海上へ入社したのは明治二十四年で月給十圓であつた。會社の成績は、二十五年頃までは頗る優勢であつたが、二十六年頃から競爭會社が出來たので、業況次第に衰へて來た。殊に倫敦支店は絕えず大缺損を續けてゐるので、先づ何よりもこの方の整理改革が當面の急務とされてゐた。

當時この難局に當るものは各務氏の外に誰もゐなかつた。彼は筆頭書記で營業方面を擔當してゐたのだが、自分が渡英すれば營業方面がお留守になる。そこで誰か自分の信賴する後繼者を置いて行かなければならなかつた。そこで彼に白羽の矢をたてられたのが平生釟三郎氏その人であつた。平生氏は彼とは同鄕で、同じ一ツ橋を二年後れて卒業したので、當時朝鮮政府に傭はれてゐた。

平生氏が入社して見て驚いたことは、會社はもう破產に瀕してゐる有樣である。これは誰だつて驚くにきまつてゐる。彼はまつたく途方に暮れたものである。

しかし、各務氏には成算があつた、希望があつた。今のところ親友の平生に氣の毒ではあるが將來必ず彼を喜ばせる時機の來るであらうことを確信してゐた。否、「俺自身が其時機をつくり出すのである」といふ堅い決心をもつてゐたのである。

「前途のある君を、こんなボロ會社へ引張り込んだのは、全く相濟まぬ。しかし俺には確信がある。將來を樂しみにしてくれ、そして君と僕と一心同體となり、生命を賭して、此會社を盛り立てて行かうではないか」

彼は熱淚を流して平生を說き勵ましたのである。後年の彼の好女房役平生氏は斯くして彼と生死を誓つたのである。

彼の一人一業主義は、それ以來目覺しい成績をあげた。社運の挽回！、彼は夜も晝も、渾身の智襄と精力とを傾けて努力した。その決死の努力が酬いられて、今や遂に同社は世界的の大保險會社となつた。資本金三〇、〇〇〇、〇〇〇圓、諸積立金八二、六〇〇、〇〇〇圓、實に素晴し

い發展である。

彼各務氏は今此大會社の社長である。恐らく、私財なぞ眼中になくても、自然にドシドシ溜るであらうことは言ふ迄もない事實である。

何でも手帳へつけて置く人！

日本一の大デパートメント・ストーアである三越の強敵は、名古屋の伊藤松坂屋である。しかも其勢力は三越以上である。建物の坪數に於て、一ケ年の純益に於て、斷然三越を凌駕してゐるので、日本一の讃辭を彼にくれてもよいのである。

その日本一の大デパートメント・ストーア伊藤松坂屋の屋臺骨を背負つて立つてゐる人は誰だらう。鬼頭幸七氏——その名聲は世間的に廣く知られてゐないが、その實力は松坂屋を三越以上に發展せしめた素晴しい頭腦と手腕の持主である。

彼は幼少の頃から伊藤呉服店へ丁稚奉公に住み込み、後、伊藤家累代の番頭鬼頭家の養子となつた。正式の敎育は受けたことはないが、性來の頭腦の明晰なのに、實地の學問を叩き込んだので、自分の事業に就いては何一つ知らぬことがないといふ。

彼は常に一冊の手帳を離したことがない。そして毎日の見聞の中で、覺えて置かねばならぬと思ふことは、一々克明につけて置く。この手帳こそ、實に彼の出世の玉手箱であつた。

「鬼頭さん」

誰か彼を呼ぶものがあつた。その呼聲に應じて彼は

「へい」

と、氣輕に頭を下げて返事をするのであつた。彼は「番頭さん時代」と少しも變つたところのない腰の低い商人である。そこへ松坂屋關係の一技師が入つて來て、過般新築された上野松坂屋の設計を見せて

「食堂の廣さが何坪で、テーブルが何箇、椅子が何脚、その高さが何尺何寸であります」

と、詳細に說明したものだ。と、彼は軈てポケットから例の手帳を取出して暫時調べながら

「汽車の食堂のテーブルは高さ何尺巾何尺、あれでは少し狹過ぎるやうですね。三越の食堂の

テーブルは高さ何尺、巾何尺ですが、あれではテーブルが少し高過ぎるか、椅子が少し低過ぎるやうですね。今度新造するものは此位の高さにしたら何うでせう」

その綿密な頭腦の働きと、實用の才能の優れたのとに、技師はすつかり恐縮し、彼の發案通りのテーブルと椅子を造つた。それがあの上野の松坂屋のそれである。如何にも腰の掛心地よい椅子であり、工合のよいテーブルである。

先年、大阪日本橋に松坂屋支店——デパートメント・ストーアを開設する議の起つた際、中には今少し世間の景氣の恢復を待つたら、といふ延期說を唱へるものもあつたが、彼の手帳に示すところの發表によれば、

「開設地を中心にして半徑何十町の圓を描くと、その圓內の住宅數何萬軒、この家々の營業稅、所得稅が何程、等、等」

一々明確なる數字をあげて、これら住民をお得意として行くから決して經營難を來すやうな虞はないと說明する。まつたく動かせない議論に、遂に大阪のデパートが新築開設された。結果は彼のいふが如く良好であつた。

その開店披露に、近所へ店員に手拭を配らして挨拶するのが一番効果的だと彼は主張した。近所といつても例の圓內住宅約十萬軒へ、一々手拭を配ることは容易ならぬ實際問題である。その氣配を見て取つた彼は、早速手帳を取り出して調べた後。

「自分が小僧時代、番頭さんのお伴でお得意先へ年賀に廻つて手拭を配つたが、一日百軒は樂であつた。ここの店員千二三百人はゐるから、店員總出で配れば一日で十分である」

——と、それが果して彼のいふ通り一日で配り終せたのである。一事が萬事、彼はこの調子で只店の爲めに一心に働いて來た。そして遂に松坂屋をして名實共に日本一のデパートメント・ストーアたらしめた。

泰西篇

不可能な事許り狙つて成功

今生きてゐるうちで誰れが一番偉いことをしてゐるか？　と、問ふ人があればどう答へよう。

私は即座に答へる——ジョーン・ステヴェンスだと——

だが多くの人は彼のことを知らない。彼とはこんな人物である。

(一)カナダ・パシフィック鐵道を建設した人

(二)グレート・ノーザン鐵道を建設した人

(三)パナマ運河を建設した人

人も知るあのロッキイ山脈を越える二つの大鐵道を建設したのだ。其の上パナマ運河を掘鑿し

て大西洋と太平洋とを繋いだのが彼である。

三つの大きな事業！

ステヴェンスの造つた軌道上を晝となく夜となく何千といふ列車がロッキイ山を越えてゐる。

何千艘といふ船がステヴェンスの掘鑿した運河を通つて一の大洋から他の大洋を越えてゐる。

彼は生きて居るのだ。今年七十六歳の老齡だ。彼は四十年と云ふものは文字通り寧日なく奮闘した。共れでゐて彼は今尚元氣で相變らず仕事をしてゐる。

彼は、一生を不可能なことをなす爲めに過した。彼は毎日これといふ定つた仕事をしたことが無いのである。人の出來ぬ仕事でなければやらなかつた。

彼の名は英國の機關士や鐵道員なら誰でも知つてゐる。歐洲大戰中彼は最難事の一つを引受けた——シベリア鐵道の經營がそれである。一九二〇年迄列車を走らした。此年ボルシェヴィズムが全シベリアに擴がつて彼は到頭自分の仕事を見放して了つた。ステヴェンスさへも斷念しなければならぬものが世の中には幾つかはあるものと見える。

子供の時分から(文が特別よい境遇に在つたのではない。彼の父は小さな町近くに住む一介の水

呑百姓に過ぎなかつた。

尋常小學にこそ行つたが大學に行くどころではなかつた。

けれど大きくなると共に、自分で機械の書を讀み雜誌を讀みして折角勉强した。

彼は晝は働き夜の半分は勉强したのだ——とは彼の友人の云ふ所である。

最初の大きな機會を捉んだのは一八八二年のこと。彼は當時マニトバとロッキイ山脈を越える

カナダ・パシフィック鐵道の建設を目論んでをつた。

老人なら思ひ出すだらうが、此の鐵道は事實懸賞で出來上つたものだ。

カナダ政府は鐵道會社に斯う云つた。

「若し十ケ年以內に完成したら五、〇〇〇、〇〇〇磅と二〇、〇〇〇、〇〇〇エーカーの土地とを提

供しよう。但し十ケ年以內に成らなければ何もやることは出來ない」と。

其處で鐵道會社はジョーン・F・ステヴェンスを遣ることにした。「頼むから早くやつてくれ」

これが會社の命令だつた。

ステヴェンスは出かけて行つた。六ケ月にしてウェニペッグ以西一〇〇〇哩の鐵道を敷設し終

つた。

ロッキイ山脈の高い頂に立つて彼は工夫達を叱咤激勵した。

山峽を結ぶ高さ三〇〇〇呎の橋を架し幾多の山を貫いて他を結びつけ山又山を越えて二條の鐵

路を敷設し太平洋の岸バンクーバーに於て完結した。

彼は五年で目的の鐵道を完成した。豫定の半分である。

其れから彼の著名なカナダ人ゼームス・ジェーヒルが彼の手腕に惚れ込んでステヴェンスを招

請し、彼に與へたのがこれもロッキイを越えるグレート・ノーザン鐵道の建設であつた。

彼は次でパナマ運河の建設を依頼され之をも成就した。

彼は此の世界を今までよりも、もつと手近にし安全且迅速に旅行させるやうにしたし、二つの

大きな大洋の間にある障害を除去して了つた。

物靜かな腰の低い立派な紳士——これがジョーン・F・ステヴェンスである。彼と一しよに仕

事したものは誰でも彼を非常に尊敬して措かない。

彼は立派な生き甲斐のある仕事をした。その偉大なること古のいかなる英雄にも比肩出來るも

のである。ロッキイ山脈最高峯の一頂に現に彼の事業を永久に記念する立派な銅像が建てられてある。

始終馳け足で前進する努力家

五十年の昔小さな雑貨店に奉公してゐた小僧、その名をウイル・リバーといつた。その彼が七〇、〇〇〇、〇〇〇磅の資本を有する會社の社長になつた。

正規の教育を受けなかつた彼がどうしてそんなに豪くなつたか？

仕事を獨占したといふのでもなし——利權にありついたことは無論無し——何等特別の利便を有した譯でもない。といつて政商となつて政府と契約して金儲けをしたのでもない。相場で儲けた譯でもないのだ。

否。彼こそ製造原價を引下げて却つて彼の賣る品物の品質をよくしたのだ。一錢二錢の小錢を積み上げて巨萬の富を築いた。

ではどんな風に彼はやつたのか？

短い言葉で云つてみるならまあ次のやうに云ふ。——彼はかうしようと思つたことをやつたのだ。五十年間全速力で前進したのだと。

かういふ說明では多くの人には何のことだか判るまい。といふのは此全速力といふのは何のことだか判らないからである。全速力とは、リバー・ハーム流に云つてみれば午前五時起床といふことであつた。午前中に一仕事をして了ふと云ふことであつたのだ。始終馳けづり廻つて自分の關係する事業を自分の眼で見て歩くことだつた。遑巡することなく思ひ煩ふことなく唯前進することだつた。

リバー・ハームはよく他の會社を買收した。そしてそれに活を與へた。買ふのはきまつて弱氣の人からであつた。で、彼は弱氣の人から買收するのを好んでゐた譯である。いつでもかういふ人から買ふと、きまつて格安に買つたからである。

遽てふためいて肝つ玉を上げた人々はせうことなくリバー・ハームに賣り渡して了つた。彼は殘らず持込まれたものを買ひ込んだ。

彼の買つた他の會社の數は、だから二〇〇に達してゐる。彼は死ぬ迄つひぞ驚愕と云ふことを知らずに過した。

彼は自分の得手とする處に終始した。

彼の終始した仕事は石鹸である。彼はグリース獸脂の後を逃つて止まる所を知らなかつた。さてこそアフリカの奥地に八、〇〇〇、〇〇〇ポンド磅の大金を投じたのも唯々更に多量のグリース獸脂を得んとする爲めに外ならなかつたのである。

「誰が天下をとらうと俺は關はぬ。俺は飽くまで石鹸屋だ」

とは彼の口癖。事實世界を清淨にした點に於て彼の右に出づるものは、未だ嘗て無い。

それだけかと云ふとさうではない——それはどういふ點かと云ふと、彼は自分が偉くなつて行きながら自分と一しよにたくさんの人々をも偉くして行つたことである。彼は自分の使ふ職工達を社員として利益を配當した。

使用者としての彼は當代の先驅者であつた。產業組合とか社會主義より以上に彼の考へは進んでゐたのである。

彼の死んだ時損益分擔の資格ある社員一八、〇〇〇人、株主一六六、〇〇〇人を算したのを見ても彼の人格が解るではないか。

彼は二五〇、〇〇〇軒の人々に自分と同樣の快樂と財產とを與へた。彼より以上立派なことを一體誰がしたのか？

彼の成功は次の三つであつた。

(一)英帝國に於て一番多く廣告したこと。十五錢の品を賣るのに十錢は廣告に費つた。かう云ふ人は恐らく先づあるまい。

(二)彼は重役會とか七面倒臭い役員會に相談しなかつた。嘗て一度も協議に信頼したことがない。彼は實行そのものに信頼した。多くの實業家みたいにムヤミに譯の判らぬ說に乘つて了はなかつた。彼は常に自由で氣儘に振舞つた。

(三)彼の手をかける仕事はどれも肥え腹つた。一社と雖もダメにしたものが無い。彼は一時、半刻と雖もそんな愚なことはしたことがない。

或る時友人が君の遺方は何だと尋ねたら「俺の遺方は柄にもない大仕事をしてやつてのけろ。

と云つた奴があるが丁度その通りの遣方だ」と答へた。

又或る時語つて曰く「俺は自分が能率技師だと思ふ」と。蓋し人のやる仕事を見てそれよりかもつと好くやることを知つてをるからであらう。

彼は常に將來の事を考へた。多くの人のやうに自分の周圍だけではない。彼は物の成行を見るのが巧だつたのである。人が四〇磅に見た物を一〇〇磅に見た。人がドングリにしか見えないのが彼には立派な樫の大木に見えたのである。

云つて見れば彼の如きは英國人として最も傑出した人の一人であつたのだ。

彼の創立した一社は年額金五、〇〇〇、〇〇〇磅の利益を擧げた。彼はそれだけで終つたのではなく、彼自身と云ふものを立派に築き上げたのである。彼は自分の事業が大きくなると同じ速さで自分の人格を向上した。とても他の人々の能くする所ではない。

かうして彼と彼の數限りなき事業は、共々に生長した。それでゐて彼はいつも先へ進むことを怠らなかつた。だから、人々は彼を眺めるとき大きな敬意を人としての彼に拂ひ、決して百萬長者としての彼に拂つたのではなかつた。

彼の成功は恐らく主として玆にあつたことと思はれる。

電報で就職を頼み込んだ青年

五十四年前鐵道線路に沿うた小さな住居に生れたのがゼームス・カーン。父は鐵道員であつた。現在彼はアメリカの西部地方に於てフリスコと稱せられる所の延長五〇〇〇哩の鐵道の社長である。

彼の經歴は話すだけの價値が十分あるといふのは彼の様な鐵道屋は現今いくらあつても足りないからである。

カーンは十四の時勉強して電信のオパレーターにならうとした。父が彼に必要なことを教へ込んだのである。

學校を出て早く實務に就きたいと焦つてゐた所フト妙案が浮んだ。

鐵道の發車係長に就職方を打電してみたのである。年はわざと云はなかつた。

偶〻係長は或る小さな停車場に電信のオパレーターを欲してゐた所なので早速少年カーンが採用されることになつた。

其後二ケ月經つて係長が件の町に用事があつてやつて來たところ、十四の少年が目まぐるしく働いてゐるのを見て驚いて了つた。

「さうです。御採用下さいました私がゼームス・カーンです」

と少年はニコニコしながら答へた。係長は溫な心の持主だつたが規則だから已むを得ない、少年ゼームスを解職した。

「十六になつたらまたお出で。キツと採用してあげる」と云ひながち、彼は少年の肩を敲いた。けれどもゼームスは、二年も待ち切れなかつた。六ケ月して係長の許を訪れ仕事をさせて下さいと頼んだ。係長は遂に彼の熱心に感じて復職せしめた。今から四十年前のことである。そして今日に到つた。

ゼームス・カーンは、鐵道屋としては舊式な人として知られてゐる。事務所に席を設けてタイピスト相手に下らない話をしたりする柄ではない。自分の持場を往つたり來たりして工夫達と共に働くといつた遣り方である。

脊が低くてずんぐりした體格、ぶつきらぼうだがなかなか元氣がよい。眼の玉は青い。汽罐室でよく聞く聲が彼の地聲で、娘つ子を口說くに似つかはしいやうな芝居のセリフもどきの當世風ではないのだ。

彼の指揮下にある各幹部級の人々や職長や數百の工夫達を呼ぶに彼は一々名前を以てし、決して番號などでは人を呼ばない。各人の特徴をよく心得てをり一人一人の癖をよく呑み込んでゐるのである。

彼はよく彼等に小うるさいほど質問を浴せる。それから？　それから？

だが彼の几帳面なことも彼の特性である。やりつぱなしは商店であらうと工場であらうと勘定禁物ではあるが、生命を預かる鐵道に如くものはない。

カーンは人を責むるに當つては最初の過を許すけれども過を繰返したことを知るに及んでは涙を振つて彼のチームから離れて貰ふことにしてゐる。

彼は人を罰するに決して下級に左遷することをしない。若しさういふことをすれば其の人が快

快と樂しまざるばかりではない。もう忠勤を勵む心を失つて了ふといふことをよく知つてゐるからである。

「怠け者が居溜らぬのは皆諸君が勵んでくれるからだ」と彼は云ふ。

日本とは事情が違ふからでもあらうがカーンは常にかう云つてゐる。「鐵道で身を立てんと思へば鐵道は若い人には素晴しい出世の機會がウンとある」と。

「今日鐵道界での主なる仕事は鐵道工事ではなくて、運轉と交通だ」とも云つて居る。

鐵道をして收支償はしめる——是が今は非常な難事だとも彼は云ふ。

今日の鐵道はあまり大きくなり過ぎて無駄が多くなり役所臭くなつた部分が甚だしくなつて了つた。

若し高い賃銀を拂ひ、たくさん配當をしようと思ふのならば、彼のフットボールのチームの如くもつと生々と活氣あらしめねばならぬ——ゼームス・カーンはさういつてゐる。

學校へ行かなかつた許りで成功

一八六三年に遡る。十三ばかりの男の子が半身を覆ふに過ぎぬボロ着物を着て痩せ衰へた身體でスコットランドのレイスの船渠に現れた。そして今しもシンガポールに向けて出帆せんとする帆船に仕事を求めてゐる。

年にしては背丈が大きい。その前年此の少年はデンマークの自分の家を飛び出して來たのであつた。

兩親は困窮のドン底にあつた。

腹一杯物を食べたことなどは、全つきりなかつた。一着の上衣をすら持つたことはなかつた。

ズボンとシャツ——それつきり。

家を後にしたとき赤いハンカチ一枚持つてゐた。親父は彼にかう怒鳴つた。

「此の足手まとひめ、何處へでも行くがよい、お前なんか糞の役にも立たぬ！」と。

經歷の首途としては驚くべきあんまりいい出立の圖ではない。此の少年の名をモーリッツ・タムセンと云つた。

運好く彼は船の仕事にありついて船に乘せられシンガポールに向つた。けれども直に自分が早まつたことをしたと氣づいた。船長は大の碌でなしで食べ物は全く犬猫に劣つた代物であつた。少年モーリッツと他の乘組員十一人は、シンガポールに於て脫船して了つた。逃げ匿れた土人の小屋の中でパイナップルとココナットを食べて生命を繋いだ。

一週間經つて彼等は恐る恐る船渠にやつて來た。そして我がモーリッツは香港向けの帆船に乘組むことができた。二日の後本船が支那海賊に捕へられて了つた。掠奪された上本船は沈められた。モーリッツが氣づいたとき彼は食物も水もない筏の上に放り込まれてゐた。

三日目に彼はメキシコ行の英國船に救はれた。帆はボロボロに裂けて非常な危險に陷つた。所が今度は此の船が颶風のマン中へ入り込んで了つた。

そこで船長はマストを切る勇者はゐないかと探し廻つたとき少年モーリッツは「僕がやつてみよう」と、云つたのである、彼がマストを切つたので船は危きを免れた。漂流五十六日、船はホノルルに於て擱坐した。

ホノルルで少年モーリッツは親切な製帆屋に出會ひ、初めて愉快な生活が彼の前に展開した。給料もなかなかよい。そして直に彼は一日二〇志リングを貰ふやうになつた。

四十磅溜つた時彼は鄕里の父の許へそれを送つた。翌年はまた四〇磅を送つた。彼の家族はまだそんな大金を拜んだことがなかつたのである。

彼は再び海に行くことにした。今度は二等運轉士である。「その時の氣もちつたら丸で天下をとつたやうでした」と彼は昔を回顧して語つてゐる。

彼の戀物語がこれから急に鮮かになる。美しくやさしい女の子が戀の相手である。名前をマリー・ニッセンと云ふ。トンダーソンと云ふ彼と同じ村のしかも路一つ置いた彼の家の向の家の娘さんがマリーだつた。

二十五歳。彼はいそいそとデンマークに歸り少女マリーと結婚した。次の船出が彼等の新婚旅行だつた。所が神が兩人の仲を妬いたものと見える。途中で難波し彼等は小さなボートに乘つて

わづかに身を以て危きを免れた。

紐育に行つて妻を此處に殘し大きな航洋船の運轉手となつて船出した。もう一廉の事務員であつた。巨大な體格、その強さは牡牛のやうであつた。

彼は海を愛した。尙それ以上に妻を愛した。一航海終つていそいそと歸つて見れば、哀れや妻は待ち焦れつつ痩せ衰へた姿を病床に横へてゐた。

「船乘りはよした。一しよに西部へ行かう」だが彼はシカゴへ行くだけの金しか持つてゐなかつた。其處で彼は一日六志で牧場に働いた。六〇磅溜めたとき彼は農園を買つた。

六年此農園を經營して二五〇〇磅で人に讓つた。今度は金物店を買ひ入れた。一ト商賣して三〇〇〇磅で賣つた。

「愈〻西だ」彼はさう云つてオレゴンに出かけ粉屋を始めた。これは最初から當つた。間もなく一ケ年一三、〇〇〇磅を儲けた。

此の製粉所は今でも西部地方最大の一つである。一日一〇、〇〇〇バシンを生産する。今日迄彼が配當として收得した額は合計一、二〇〇、〇〇〇磅の巨額に達する。

モーリッツ・タムセンは海では恵まれなかつたが陸上では幸せなやうである。彼の手をつけた仕事は悉く當つた。

彼は日本に製粉工場を作つてゐる。カナダに製粉工場を作つた。オレゴンは、煉瓦工場を始めた。ウエールズから石炭を輸入したのも彼だ。ビスケット工場は一昨年二、三〇〇、〇〇〇磅の賣上げを示した。

彼はメキシコに五〇〇方哩の工地を持つてゐるばかりでなく多數の事業株を所有してゐる。現在立派な十四大會社の取締役會長である。嘗つて上衣も持たず家を飛び出すときに親父に惡たいを吐かれた彼の若者が——

最近或る人が彼に成功の祕訣を尋ねたところ、

「さうですね、教育を受けなかつた賜ではなかつたでせうか。若し青少年時代を學校生活で暮したのだつたら私はすつかり片なしになつてゐたと思ひます。そしたら難儀な仕事には逃げを張るやうになつたでせう」

ガツチリした船乘り上りの彼はニコニコしてかう答へた。

彼は失敗せぬやうにと自分の仕事に精を出してゐる人の爲めに一臂の勞を借すことを唯一の樂しみとしてゐる。うまい具合に彼の助言を得たり資金を貸して貰つた御蔭で、巨富を得た人は、十を以て數へる。

彼も彼の妻君も今は七十一の老齡だが尙矍鑠として壯者を凌ぐ有樣。餘澁なく人生の快樂を味つてゐる。シアトルの廣大な邸宅に住み彼の兄弟姉妹を近所に住はせて居る。

一人の息子と三人の娘があり最近大家族會を催した上、自分の子供等と親族等に財產の分與を行つた。

デンマーク人中一番の富豪となり成功した人と云へば先づ彼を第一に推さねばならぬ。

彼の成功は若い時刻苦した賜であるとは彼の屢〻語る告白である。

變り種の苗を作つては賣出す

ルーテル・バーバンクは世界第一の園藝家であつた。彼ほど數多くの新種の樹木野菜、果實を創出した人はない。彼は自分の庭園を勉强して大きな自然の妙理を極めたのだ。

數年前カリフォルニアで亡くなり、自分が四十年間親しんだ庭園の中に葬られてゐる。

彼は一生涯旅行したことがない。彼はいつも自分の庭園で研究した。

彼は實に純情愛すべき人であつた。ピーター・パンその人であつた。齡七十七歲にして童心を有した。其生活は歡喜と熱中で一杯であつた。彼こそよく物を考へる人であつた。彼の御蔭で此の世の中はいかばかり稗益されたことであらう。またいかばかり幸福が增大されたことであらう。

彼は全く家庭的の人。自分の家內を愛し姪のベテイ・ゼーンを慈しみ、犬のボニタを可愛がり自分の庭園を大切にした。

樹木の栽培に於て最も大事なことは環境であると彼は云つた。土と氣候と變へてみろ、きつと變種ができると。

松の葉は針のやうである。だから自ら雪をふり拂ふことができる。棕櫚の葉は濕氣を止める爲めに大きな葉を持つてゐる。等、等、等。

一生彼はダーウィンの弟子を以て任じた。ダーウィンを目して凡ゆる思想家中最大なるものとして敬してゐる。いかにせば大園藝家になれるかを彼に教へたのはダーウィンその人であつた譯である。

自然の方法の遲いのを見てとつた彼はどうしたら早くすることができるかを研究した。謂はば始終近廻りを探し求めたのである。

或時九ケ月間に杏の木二〇、〇〇〇本を引渡さねばならぬ注文を受取つた。彼は間違ひなく其契約を果してゐる。

彼はかうして植物の新種を作る方法は、こんな風にやるのである。先づ切ざしにしても實生からにしても數にして一〇、〇〇〇本位は植付ける。そしてジツと其發育狀態に目をつける。一寸でも優れてゐることを發見する毎にボロ切れを結びつけて殘りは皆根こそぎして了ふ。拾ひ上げられたものは一〇、〇〇〇本の中三〇本以上を出たことが殆どない。それから此優良種から種をとり、又は切挿しして幾度も此方法を繰返すのである。

優秀なものを少數選抜し——普通のものは根絶やし——して最上のもののみを手許にかける。

——これが彼の能率增進法であつた。

選抜と發達——これは啻に園藝家のみに必要なのではない。工場でも商店でも普通に行はれることである。傑れた雇主は技倆の優れた雇人を見つけ出して之れを守りたてて大成せしめることは諸君も知つてゐるだらう。

彼は植物といふものが習性を變へる力があることを發見した。どの植物も同じだとは云へないが、土や氣候の變化によつて變らせることもできる。是を應用すると發育を促進することができることを發見した。

彼は八ケ年で小さな豌豆を作るやうにとの依頼を受けた。彼は三年にして達成した。これが今日有名なバーバンク・エムプソン豌豆で鑵詰用として旺んに使はれてゐる。

新種の椿桃も作つた。その爲めに彼は十二ケ年を研究に費し一、二〇〇磅も使つてゐる。從來のものより大きくて果汁の多い、香の高いものができ上つた。

彼はまた我日本にとつても忘るべからざる大恩人である。何故と云ふと蠶の食餌となる桑の改良種を作つてくれたからである。此桑の木は從來のものの倍も葉を多くつけ、頗る德用なもので

ある。

種の無い杏を作つたのも彼である。杏の木を使ふこと合計二五、〇〇〇本。その中から作り出された新種は僅に三〇種に過ぎない。

彼が一番苦心したのは家畜の食用に適させようとして針の無い仙人掌を作ることであつた。各種の仙人掌を植付けること六〇〇本。前後十六ケ年を研究に費して到頭成功した。

これは他の凡ゆる植物にとつても重要なことである。御存知の通り仙人掌はどんな所にでも平氣で生長する。一番育てるに厄介なバラとは全然反對の強い植物である。試みにバラを切つて地上に投げおくと直に縮んで了つて頓て枯死して了ふ。けれども仙人掌の一片を放つて見よ。どんな所にでも直きに根を下すだらう。バーバンクは仙人掌の一片をズックを敷いた棚の上に置いて見たところ、驚て根はズックを通し壁を傳はつて土の方へ根を下すのを見たことがある。

バーバンクはおいしくない果物に甘味をつけ、香の無い花に香りを與へ、きたない色の花に美しい色を齎すことに成功した。いづれも選拔とその選拔したものの養成、更にそれを反覆するし丁度植物に對する幹部養成によつて成就したのである。

彼の園藝はだから引合つた。新種七〇本で一二〇〇磅にも賣れたことがある。無數の大口契約もとつてゐる。だが彼は金儲けを目的としてやつたのでないことは明記せねばならぬ。

晩年彼は幼兒並に成人の訓練に自分の着想を適用することを非常に興味を以てやり出し七面倒臭い基督教的な學校教育を極力嫌んだ。

若し彼に借すにもう十年を以てしたら彼は新しい教育方法を案出しその結果人間の新種改良種と云ふものが現れたかも知れない。

尤も此方面に關する仕事は彼の流れを汲む他の人々が現に研鑽してゐるのであるが何時かは彼バーバンクが植物に對して試みたと同じ能率增進法により人々が訓練される時が來るであらう。

彼の云ふ所によれば彼の研究の資料となるものはいつも英本國、カナダ、濠洲、ニッジィランド等から來るもの多くアメリカからは來なかつたと云ふ。これは英國人が先天的に園藝を愛する爲めだと彼は云つてをるが庭師と園藝家とは理が違ふ。我々だつて一言も文句は云へまい。

戀と名と金に成功した盲人

一度つきりでいい話もあるが二度聞いてもいい話がある。是がそれなのだが知つてる人は知り度い我々のやうに知りたがらぬ。

二〇〇年ばかり前イギリスのヨークシャーの一勞働者の小さな息子が疱瘡にかかつて眼がつぶれて了つた。

けれども何せヨークシャー生れとしては一番のできのよいのが彼だつたのだ。他の子供達と小鳥の巢をとりに行つてみんなと同じやうに木登りしたと云ふから凄まじい。

長じて犬や馬を愛し、州一番の胡弓彈きでもあつた。闘鷄も飼つた。競走にも出かけた。快活なこと無類、しかも盲そのことは石の如く嚴然たるものであつた。

村の別嬪と戀に落ちたが娘の兩親が盲との緣を担んだので駈落をやらかした。それは人も羨むほどの樂しい夫婦仲、彼の死んだ時四人の子供と二〇人の孫と九〇人の曾孫とがあつた。

三十七歳の時彼は道路請負人となつた。盲の彼にとつて此の世で一番重要なことは良い道路であつた。

ブラックバーンとベリーとの間、

ウェークフィエルドとハリファクスとの間、

ヘアウッドとハロゲートとの間、

其他リーヅに到る五、六の道路は皆彼の作つたものなのだ。

彼は橋梁建設者としても著名である。彼は盲でありながら建築基礎に對して自己獨特の考へを有した。未だ彼の架した橋で落ちたものは一つも無いのだ。

晩年の彼は妙な感觸を有したことも著名である。周りに自分の手を觸れただけでよく積み上げた枯木の重量を云ひ當てた。

行年九十三。死ぬその日迄多忙であり笑ひさざめいてゐた。

自己憐愍ではない。旦那樣方や奥樣方！　どうぞ一文御慈悲と云つたのではない。救恤金を貰つたのでもない。何の利便があつたと云ふのでもない。

まつくらな世界を呼吸しながら何と朗かな一生であつたことか。――これがジョーン、メタカルフ――盲人ナレスボローのジャックの生涯であつたのだ。

彼は全く生き甲斐のあつた人だ。彼は數多の友人を作つた。競技に打興じた。有益な事業を成し遂げた。安らかに暮すだけの金を儲けた。

物を見ることができなかつた外は人のするほどの樂しみを味ひ盡したのだ。

彼の生涯は大戰で傷いた人々や世の凡ての盲人に大なるインスピレーションを與へるものである。よしんば不具の人と雖も何かで成功し得るのだ。腕や肢或は兩眼を失つたとて意氣沮喪して自暴に陷る必要はない。

盲人ナレスボローのジャックは金持になり其上名を擧げた。當代に於ける立派な仕事をした隨分立派な人がヨークシャーから出るけれども彼より酷い困難に遭遇した者は未だ嘗て無いのだ。

假令彼は太陽の光りを見ることができなかつたとしても彼は心の中に光明があつてまつかに燃えたであらう。それは大望と云ふ光明だ。彼こそ青年は盲目とか聾とか貧乏とか其他いかなることにでも負けてはならぬことを實證したその人なのだ。

サラ・ベルナードがよく云つたやうに「何は兎もあれ」彼は目出度く成功したのである。

いや應なしに錫王となつた男

――ボリヴィアの著名な錫王の富がウンとこさと殖えた。

大戰中彼の收入は一年約一、〇〇〇、〇〇〇磅であつた。彼は現在マドリードの西班牙朝廷に於てボリヴィアの大臣を務めてゐる。

今から約二十五年前パティノは海拔一萬二千呎のアンデス山中の一都邑オルレにある小さな獨逸商店に店員として勤めてゐた。

拂ひの惡い掛勘定の集金がパティノの仕事の一であつた。これはボリヴィアでは決して生やさしい仕事ではないのである。

此町から數哩離れた所にアンヴィアと呼ばれる小さな鑛山村があつた。此村の一人が件の獨逸

商店から一七磅の借金をしてゐた。パティノは勘定をとりにやられた。獨逸人はとてもきついことを彼にいひつけた。「お前が空手で戻つて來たら出て行つて貰ふぞよく覺えて御出で」と。

パティノは出かけた。鉛の如く重い氣持で借手は一文も持つてゐなかつた。「と仰やつても僕は空手では戻れないのです」とパティノは哀願した「僕はやめさせられて了ふのです」

「よし、それぢあ錫礦一つの權利證書を渡さう」と借手は云つた。

パティノは證書を受取つて一七磅の領收證を借手へやつた。

處が獨逸商人はカンカンに怒つて了つた。「貴樣はビタ一文にもならぬ錫山を俺に攫ませてどうする氣なのだ。錫などはちつとも無いのだぞ、どうするか見てをれ。その錫山はお前のものにしてやらう。その代り俺はお前の給銀から一七磅差引いてやらう」

こんな譯でパティノは自分の意志ではなかつたが兎に角錫礦と云はれる所のものの所有者となつて了つた。五六ケ所に穴が明けられた凸凹の土地數エーカーに過ぎなかつたのである。

彼は荐りに自分で掘つてみたが頗るガツカリして皆捨てて了つた。だがどうだ！　彼は自分が世界でまだ知られたことのない錫の硫化物の驚くべき管狀礦の上にをることを覺つたときの嬉しさ。

彼は金持となつた。扨て彼の收入は一日一五〇〇磅——毎五分に十七磅入つたのである。

獨逸商人の親爺が此のことを聞いた時何と云つたか知られてゐない。

パティノは今大した富豪である。だが此富も決して彼をやくざにはしてゐない。彼は多くの金をボリヴィアの進歩の爲めに使つてゐる。

彼の成功は我々にかう敎へてはゐなからうか——若し不運にしてカスを攫んだら、それを棄てずに何處迄も持ち續けろと。

何處迄も勇敢に持ち耐へろ、先の豫想はどうでもよい。そしたら好運に變へることができるかも知れない。パティノがした通り。

死の宣告から起つて百萬長者

難しいことが隨分あるものだと多くの人は考へる。そして自分を憐れむ。けれどもほんたうの

難事を知り度いのならば此ウェールス生れのエドワード・エヴァンスの話を讀んで欲しい。

一九〇〇年英國へやつて來たときは生牛運搬船に乘つて來た。

一九〇四年に行つたのは英國博物館見學の爲めであつた。

そして最近行つたときは百萬長者衆て自動車積卸に於て世界第一の大家としてであつた。

彼が特許を持つてゐる自動車積込用の臺木は製造者側にとつて一二、〇〇〇、〇〇〇磅を利すると云はれてゐる。

エヴァンスはデトロイトの自分の工場から何百萬と云ふ臺木と枠箱とを造つた。

自動車積送による損害に對する平均費用一臺に付き從來の二〇志から二志に引下げた。其後彼は二割も多く貨車積できたのである。

是が彼の成功の原因である。ようく彼の遭遇した困難と——それから最初に嘗めた數々の失敗の跡とを見よう。

先づ第一に富裕なヂャーナリストであつた彼の父が突然財産をフイにして了つたのがエドワード十三歳のときであつた。彼は自然實社會に飛び出し雜貨店に働いて一週二志を得た。長ずるに及んで彼は販賣員としてなかなかの遣手となつた。三十六歳の時彼は年收にして四、〇〇〇磅あつた。

好事魔多しとやら或年彼は友人の手形を裏書したが運惡く自分の銀行がツブレて了つたので、彼は一二日の後無一文となつて了つた。

これが最大の難事ではない。餘りの心痛の爲め身體をコワし瀕死の境を彷徨したのだ。五人の醫者が彼の枕頭に集まつてあと二週間は生きられぬと語るに至つた。

此哀れな宣告にピクリとした彼は勇氣を奮ひ起したのである。そこで彼は爾後心配することをやめた。漸次健康が恢復したのは云ふ迄もない。

自動車の臺木を販賣して一年間に彼は一ケ月二八〇磅を得るやうになつた。自動車の臺木と枠箱とを此間彼は自分自身の工場を作り一ケ月二八〇磅を收入するやうになつた。

作り出したのである。今ではカナダに大森林を所有してゐる。幸福な結婚生活をして双生兒を有するのは目出度いことである。

十年前死を宣告された彼——今日彼は凡ゆる富と健康と家族と生活と人格とを得た。恐らく死

を豫言した五人の醫者よりももつと長生きしさうである。

彼は云ふ「成功の祕訣は自分のすることをハツキリ分別して勤勉努力することだ」と。

新しい仕事をやらうとするとき彼は先づ買ひ得られる限り、そのことに就て書いた圖書を讀んでからでなければ手を着けなかつた。

一〇〇パーセントの販賣部長

本書の讀者中には數多の販賣員諸君がをられることであらうが一體どうしたら自分の收入をウンと增すことができるだらうか等と色々工夫してゐる方もあらう。此話はさし當りさう云ふ人には特に誂へ向きの痛快な話である。販賣部長自ら陣頭に立つて配下の販賣員達——たつた一人は除外——と勝敗を爭ひたくさんの賣上を得て見事にやつつけた話である。

此一〇〇パーセント販賣部長と云ふのがジョージ・リーだ。彼の會社はプロテクトグラフと云ふ特許品を販賣してゐたのだが其賣上は到底ジョージ・リーを滿足せしむる程ではなかつた。

地方を駈けづり廻る配下の販賣員は四百五十人もゐたのだが販賣するよりも普通の旅行者と同じやうに却て歩く方が多いと云ふ有樣であつた。

十三年間机にカジリ通したジョージ・リーはいろんな指令を販賣員に與へる。もつと販賣員が眞劍になつたらもつともつと賣れることは判つてはゐるが、さてどうしてそれを證明することができるか。一方には是非打負かさねばならぬ大强敵があつたのだ。並大抵の苦勞ではなかつた。

販賣員は販賣員で彼是と辯解する。尤もらしく聞かれる。

或日ジョージが氣を腐らしてゐると一つの妙案が浮んだ。早速販賣員全部を招集して協議會を開いた。彼が販賣員達に挑戰を開始したのだ。

「俺はきつと君達よりも多く賣つて見せるよ」一週間街頭に出馬してそれを實證して見せると彼は豪語したのである。

勢よく室を飛び出して街頭を步き廻つた。そして此一週間に申込七十五件、二十二のプロテクトグラフを賣つた。彼と略同數賣つた一人の外悉くの販賣員が彼に皆んな負けた。例外の男は二時間半に一つを賣つた勘定である。

かくて新しい記錄を作つたのだ。

此試みは販賣員の氣持を新にした。今迄大多數は一日一つ賣ることを以て能事終れりとした。販賣員としては嘘のやうな話である。

さて結局の結果はどうなつたか。——販賣員はいづれも自分の仕事に熱中して來た。今では押しも押されもせぬ販賣員である。堂々たる販賣員である。

彼等は一同販賣部長の記錄を打破ることを決心したのである。翌週一販賣員は二十七臺賣りこの後二十九臺賣つたものが現れた。販賣人に活氣を呈すると同時に賣上增大に應じ工場は大馬力を必要とするに至つた。

販賣部長ジョージ・リーは巧みなスポーツをやつて見せたのだ。

彼は自分を俎上に上せたのだ。そして販賣員と勝負を爭つたのである。

彼に做つて販賣部長自ら範を垂れんとする人は誰か。そして街頭に立つて自分の配下の優劣を爭はんとする人は誰か。

サービス一點張で成功した男

アメリカ合衆國にジョーシュア・ロアゾーと呼ぶ一人のフランス人がゐる。大きな材木屋である。一昨年は八〇、〇〇〇磅の賣上を示した。

彼はフランスの片田舍で生れ、父は百姓で先祖代々三百年も百姓だつた。彼自身も農を營んで三十三の齡さで暮したのだ。

三十三の時田畑八〇エーカーを所有してゐた。妻との間に四人の子供、百姓で過ごしたとて先づ結構に暮して行けたのだ。然るに商賣人としてもつと立派にやつて行けると決心した。

そこで土地を賣却した。が負債を拂つて手元に殘つた金は僅に四〇〇磅だけ、コツコツやるより外に途なしと覺つて自轉車一臺と材木一貨車分買ひ込んだ。此材木を賣上げた時また別の材木を仕入れた。それから馬を買つた。營業第一年間彼は一人の人と馬一頭とで商賣をやつたのである。

兎角して材木商賣に就て新規な妙案が浮んだ。材木商賣の主なる損は無駄が多い爲めであることに氣がついたのである。

そこで彼は材木置場をキレイに取片づけることにした。スグと材木積場にタイルで仕切りを作つて了つた。是によつて保險料を三割三分方引下げに成功した。

彼は現在四〇臺の運搬車を持つてゐるが皆黄色で塗つて黒い緣をとつてをるから一見して彼の車であることが判る。毎土曜日に清掃する事になつてゐる。彼の最も有力な廣告の一つである。

尙又彼は多くの材木屋が自分のお得意に何の御勤め（サービス）もしてゐないのに氣づいて御勤めをやり出した。現に大きな接待用の室を用意してあつて其處には家を建築したいと思ふ人々の參考になるやうな設計に關する圖書がおいてある。またホールもあつて時々建築に關する活動寫眞を映したり新設備に就て講演會を催したりするのに當てゐる。

今現に彼は建築協會の會長を勤めてゐるが、新に結婚した夫婦が自分達の家を求めてゐる時には彼は材料を供給するだけではなく、必要な金を手に入れさす爲めに援助を吝まぬといふ譯である。彼の援助を受けて自分達の家を持つたもの實に二〇〇〇軒を超えるといふ盛況。

彼はもともと製材所といふやうなものから始めたのであるからお客の好みに從つてどんな特種のものでもまたどんな形のものでも提供することができる。子供達が手慰みにボートを作ると云へばそれに要する細々した材料まで面倒臭がらず賣つてやる。「お子さん方は先へ行つての大事なお客様です」と彼は云ふ

要するに此フランス生れの材木屋は材木屋だとて他の凡ての店と同じやうに客に對してお勤めすることができるといふことを實證してゐるのである。販賣員としても廣告家としても材木商賣ではなかなかエラ物であることを示してゐるのである。

材木屋と云へば大抵の人はかういふことを信じないで一笑に附し、石炭屋が石炭を賣るやうに材木を賣るので建築設計を賣るのではないと云ふかも知れない。資金の心配迄してやる必要はないと云ふかも知れない。とすれば丸で客の方の立場を無視したものと云はねばなるまい。

若し世間の材木屋も彼のやつた如く材木置場を整頓し客に對するサービスを實行したならばそれは恐らく自分の喜びばかりではあるまい。

立話から百萬弗を儲けた男

今から二十年ばかり昔、紐育の第四十七番街警察署にサムエル・セガルといふ一人の刑事が勤めて居た。

サムエル刑事は、最初外勤のお巡りさんだつたのだが、後に刑事としての彼の天分が認められたのか、とにかく泥棒を捕まへても、捕まらないまでも、立派な刑事といふ肩書を貰ふやうになつたのである。

このサムさんが、警察官として何んな手柄を表したか、今では誰も知る者がないが、サムエルは毎日泥棒をつかまへる仕事の餘暇に、錠前の改良に頭を痛めてゐたのである。

今までの錠前では、多くの泥棒共が短かい鐵棒一本で、容易にコヂあけてしまうことができるのである。それでは自分達が何んなに一生懸命になつても、泥棒にねらはれる家は增えるばかりだと考へたので、何とかして、泥棒のコヂ開けることの出來ない錠前をこしらへ度いものだと考へたのである。

ところが、幸なことに彼の刑事としての經驗と、それに少しばかり發明的の才能を持つて居たので、遂に理想通りの泥棒の持つて居る短かい棒では、こぢ開けられない錠前の見本を作ることができたのである。

發明は完成したのだが、それを何うしたらよいのか。

そこでまた、サムエル刑事は困つた顏をしてゐたものである。

貧しい刑事の身では、自分だけの力でその發明を一つの事業として、實際化することができなかつた。かと言つてこれぞと言ふ知人もない彼であつたので、出資者を求める手段もなかつたのである。

彼は誰でもよいから、自分の發明を理解し、そしてそれに出資してくれる人を望んでゐたものである。

だが、默つて家の中へ引こんで居たのでは、いつまでたつても、後援者の見つかる譯はない。

そこでサムエルは、雜踏する街の中に、漂然と自分の發明をたすけてくれる人物を探しに出か

けたものだ。

サムエルは、煙草の箱でつくつたその發明の見本をポケットにいれて、或る日コロンブス大通りと、六十六番街の交叉點に立つてゐた。おびただしい人や車の雜踏する街を眺めたサムエル刑事は、つくづく面白くない人生だと思つた。

こんなに大勢の人間が居るのに、自分の有益な發明に就いて、誰も耳を假さうとはしないのだ——

しかし、誰もうすぼんやりとつつ立つて居るみすぼらしいサムエルの存在なんぞに氣をつけて行く者はなかつた。

サムエルは、誰でもよいから、自分の有益な發明について說明してやり度かつた。

と、丁度その時、一人の肥つた人なつこい顏をした男が、彼に話しかけて來た。

彼も亦、きつと誰かと話をし度がつてゐたのに違ひない。

そこでサムエルは、直に自分の發明のことに就いて、ポケットからその見本を取り出して說明を始めたのである。

見ず知らずの路傍の人をつかまへて、發明の話なんぞする自分を、きつと氣狂だと思ふかも知れない。それやこれを考へながらサムエルは、しかし尙も熱心に說明をつづけたのである。

ところがその肥つた人物は、段々サムエルの說明に引込れて、熱心に耳を傾けるのでした。

やがて說明が終ると、彼はサムエルに向つて、

「私は、投機に失敗して殘金が千弗ばかりあるが、この金をあなたの發明品に投資してもよい」

と言ひ出したのである。

この發明は、十五年の後には七十一の特許を得て、時價百萬弗と稱せられ、往年の貧しい刑事セガアルは、セガアル錠前及鐵製品會社の社長となり、彼に最初の千弗を提供した肥つた人はジェー・エス・マイヤーといつて、副社長の椅子に座つて居る。

路傍のちよつとした出來事にも、眞劍に判斷して成功のチヤンスを摑んだのは、マイヤーの偉いところだが、金儲けと運はいつも隣り合つて居るものらしい。

廢れ物を買つて巨額の儲け

一八三六年と言ふと、丁度今から百年ばかり昔になる。

扨、その一八三六年の或る日、まだ若い一人の毛皮商人が、リバープールの港へやつて來た。彼の名は、チタス・サルトといつて、丁度毛皮買出しの旅行中だつたのである。

リバープールは、當時もなかなか盛んな開港場であつたが、その波止場の倉庫の中には遖々と海を渡つて來た樣々な商品が、山と積まれ、そしていつがそれ等の品物はそれぞれの寶れ口にさばかれて行くのだつた。

だが、たつた一つ、いつまでたつても、誰も引取りに來ない品物があつた。それは汚ならしい袋で、何か得體の知れない馬の尻尾見たいなものが一杯につまつて、倉庫の隅にうづ高くつみあげられてゐるのだつた。

この得體の知れない袋に就いては、波止場の中で一番古くから居る倉庫番でさへ、それが何時何んな船で運ばれて來たのか知らなかつた。

何でも噂では、それは南アメリカから投機的に送られて來たのだと言ふのだが、誰もこの厄介物を欲しいと思ふ者はないのだつた。

實際これは、波止場の倉庫にとつては、厄介な代物に違ひなかつた。何時の間にか、この袋は倉庫の鼠には、恰好の住宅となつて、その中味を引ずり出しては、倉庫の中に散らかして居たものだ。

さて、その一八三六年の或る日のことだが、若い毛皮商人のサルト君は、この倉庫の中を歩いてゐた。

とその足が、鼠が引つ張り出したこの何とも得體の知れないものに引つかかつたのである。

すると、サルト君はそれを取りあげて、鼻で嗅いでみたり、手で觸つてみたりした。それからこれを少しばかり家へ持つて歸つていろいろに實驗をしてみたのである。

それから幾日か經つて、サルトはその持主の事務所へ出かけて行つたものだ。

「あの波止場の倉庫の中にある袋に這入つた品物を、實つて貰へませんかねー」

するとその持主は、驚いて彼の顔を、穴のあく程見つめた。

「え、何ですつて、あれをあんたが買ひ度いとおつしやるので――」

陽氣の加減で、飛んでもない氣狂ひ野郎が飛び込んで來たと思つたのだらう。

長い間、厄介にしてゐた物をいくらかにでも賣ることができれば、飛んだ金儲けだとばかりに持主は二つ返事で、これをサルトに賣り渡してしまつたのである。

ところが、この得體の知れぬ厄介物こそ、アルパカであつたのだ。サルトは極めて重要な新しい織物纖維を見つけ出すことに成功して、巨額の儲けをすることができたのである。

世間の人が、捨ててまるで顧みなかつた品物の眞實の効用を發見したのが、サルトの偉いところである。貨殖の祕訣もまたここにあると言ふべきだ。

流行に目を着けて儲けた青年

紐育（ニューヨーク）の一貧家に人となつたジョン・ジェーコブ・アスターは、貧苦が身に沁みてゐたそれだけ、將來は金持ちになりたいといふ希望の念に燃えてゐた。

ある婦人帽子商に金を貸したが、その店が次第に衰運に向ひつつあつたので、元金は愚か、利子さへ仕拂ふことができなかつた。止むを得ず彼は、その帽子商と相談の結果、自分の債權を出資にふり替へ、共同して商賣を始めることにした。しかし、彼は紐育市内に店舗を持つことができたといふことが、たとへそれが共同にしても限りない喜びの一つであつた。

「何うして此の店が振はないのだらう」

と、考へてみた。そして次に

「何うすれば店が繁昌するだらう」

といふことを考へた。ある日、商賣の繁榮策を考へながら、あてどなく市中を歩いてゐた足がいつか公園へ向いて、その疲れた足をベンチに腰掛けて憩うた。が、頭の中では依然として店の繁榮策に耽つてゐた。

初夏の軟い風が心地よく肌を撫でると、その瞬間、彼は我に返つて周圍を眺めた。青葉若葉が美しく眼に映じ、樹間を縫ふ散歩の婦人たちの姿も亦美しい眺めの一つであつた。一人の婦人が

瞳を張り肩を反らし、端麗な顔つきで、それがいかにも澄して羽をひろげた孔雀のやうな態度で彼の前を過ぎ去つた。彼は何よりも先づ、その婦人のボンネットに瞳を注いだ。

「あの色だ、あの型だ」

彼の頭はまた帽子商に返つた。直ぐに店に歸り番頭に命じて、飾窓に、自分の考へ通りの型の色の帽子を陳列させた。

「これが貴婦人好みの新型らしい。色も今まで餘り見なれない色だ」

彼は自ら飾窓の前に立つて陳列の位置の指圖をした、また公園へ引返した。そして又ベンチに腰かけて通行の婦人を注視した。女學校を出たばかりの年頃のお嬢さんが二人連れ、何か愉快げに話しながら通つて行つた。勿論彼はその帽子をよく注視した。

「面白い型だ、色も上品でよい」

直ぐに店へとつて返した。飾窓の前に二三人の婦人が立つて眺めてゐた。何か囁きあつてるのは品定めしてゐるらしい。

「こんどはこんな型の、色はこの方なのを陳列してくれ」

と、いひつけて、又もや公園へとつて返した。

飾窓の前には次から次へと、美しい婦人たちが立つて覗き込んだ。店の陳列の帽子も流行に遲れない新型のみで、往來の婦人たちの眼を惹かないものはなかつた。斯くして店内は、以前の沈滯した空氣から解放されて、潑剌たる明るい雰圍氣が漲つた。

「あの飾窓にあるボンネットを」

若い貴婦人が買つて行つた。

「あのコバルト色なのを」

お嬢さんの好みであつた。

「空いろの方なのを」

娘さんだちの好みであつた。

それから帽子が急に賣れ出した。翌る日も、その翌る日も、美しいお客さんだちが次々に押しかけて來た。

アスターは店頭に坐つて、絶えずお客の眼を注視した。そこには流行の色と型とが判然讀まれ

るのであつた。

「やつぱり、お客の欲しい品だけが賣れるのだ」

彼は、かう呟きながら自分の思惑の的中したことを喜んだ。

アスター家の富は斯くして作られたのである。

出來さうもないことをした男

今から四十年ばかり前、ドン・バーバーと呼ぶ一人の若者があつた。建築事務所の店員が彼であつた。大した野心を胸に持つてゐたのだが誰もかまつてくれはしない。

或日其處の大將が彼を自分の手元へ呼んだ。

「ドン君、建築家にならうと思ふのならパリに行かなきやダメだよ。エコー・ド・ボー・アー（美術學校）で勉強するんだネ」

「とてもそんなことはできないんです。御金がございませんもの」と少年は悲しさうに答へた。

「そこだ。君！　できさうもないなどと驚いて了つてはいけないよ。行き給へ、パリへ」

主人に勸められて少年は出かけた。花のパリへ。彼の家根裏の生活が始まつた。自活の途を講じながら折角勉強した。その結果はどうだ。九つのフランスのメダルと特別優等卒業證書とが報いられたのだ。

學校を出て彼はニューヨークへ行つた。そして竟に世界一流の大建築家となつた。彼の設計になる建物は凡そ二〇〇、その建築費一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇磅に上る。やれさうもないことをやるのが彼の唯一の道樂であるから到底人眞似のできる藝當ではない。

現に美術建築協會の會長の榮職にあるが彼の凡ての成功は三十五年前彼を使つた一建築家が今一例を擧げて見る。數年前彼は或る保險會社から招聘されたことがある。

「やれさうもないなどと驚いて了つてはいけない」と云ふ勸めに從つた爲めに外ならない。

「此建物が餘り狹くてやり切れないのですが取毀して了ひたくもない。とても此上に家を積重ねられさうもなし、又建ましの爲めに營業が差支へても困る。何とか妙案はありませんか」

と云ふのが保險會社社長の言葉だつた。建て增しするやうな地所がない。どう見てもやれさう

でない。——全く難問題であつた。

ドン・バーバーは答へた。「承知しました。今ある建物に少しも重さを加へないでモット大きな建物と致しませう。無論御事務を邪魔することはありません。只普通の場合よりも少し費用が多くかかりますが、なんでもありません」と。

筆者の知る限りでは——彼は前代未聞の大仕事を見事にやつてのけたのである。彼は今迄の建物の上に更に五階建をのつけ屋根の中の桁構からそれをブラさげて支へた。

バビロンの空中庭園の傳説はなるほどある。けれども果してそれが吊されてゐるのか、さうでなかつたのか。今は知る所でない。だがバーバーの五階建は嘘偽りなく古い建物の上にブラ下つてゐるのである。

此建物は現に十階建である。下の五階は地上に建つてをるがその上の五階はコンクリートと鋼鐵とでできた八本の柱に支へられてゐるのである。

バー・バーは斯様にして五階建の上に五階建をその上のものは下のものに係りなくした。

バー・バーの所説によればほんの少々餘計金を掛ければ住宅を耐火裝置にすることができる。修繕費一ケ年僅か一分位しかかからぬ木細工抜きの家を諸所に作つたが、普通の住宅では修繕費として一ケ年に建築費の三分位は優にかかる。

バー・バーの守つた二つの原則は次の通りである。

（1）壊れない材料をつかふ。

（2）附近で使つてゐる材料を使ふことによつてなるべく周圍と調和するやうにする。

彼は物に熱心で其烈しさは何時も變らない。生きる限り續々建物を建てることであらう。

終業の汽笛を鳴らさない工場

此話は一九〇四年に始まる。リチャード・フェイスといふ二十六歳の青年辯護士が本篇の主人公である。

ニューヨークに法律事務所を開いたが、なかなか法律で飯が喰へぬ。二、三週間はそれでも辛抱して机に座つて依頼人を待つてみたがいくら待つても待つ人は來なかつた。

痺をきらした彼は竟に父の仕事の代理店をやつてみようと決心した。親父さんはクレープランドで衣服工場を經營してゐた。——無論一般的のものであるから大して著名ではなかつた。やつてゐる中にだんだん衣服商賣が法律商賣よりはズツと面白いことに氣がついた。そこで父へ手紙を書いた。「お父さん家へ歸らして戴けませんか、工場で働き度いと思ふのです」親父さんもよく物の譯識りと見える。「だが一番下ン尻から始めるのだぞ、何にも特別待遇などをすることができない。先づ工場で一番待遇が悪くされることを承知ならやつて來てもよい」と息子へ答へてやつた。

彼は直にやつて來た。工場通ひを始めた。出勤時刻朝六時半、給料は一週三磅であつた。背の小さいヅングリとした樂天家で親切相な眼と恐ろしく強い顎とが彼の特徴である。當時親父の奴隨分非道いことをしやがるとは內心思つたがジツと耐へて仕事に精出した。

二十七歳の時彼は結婚したいと思つた。親父さんに打明けたら卽下に「ノー」と云はれて了つた。「おまへは何を云つてるのだ。先づ收入の途をハツキリせねばどうして暮すつもりなんだ、悪いことは云はぬ、もつと辛抱するがいい」

リチャードは止むなく學校教育を悉皆忘れる工夫をして只々熱心に働き出した。裁縫部に在つて一日十時間働いた。

倉庫部、見本部、發送部等に働き、次で出張販賣人に出かけさせられた。そのときが二十九歳やつとこさで可なりの昇給があつて十分に生活が支へられるので結婚することができた。三年後營業部長に任命された。

最近迄十ケ年彼は營業部長として粉骨碎身の努力をした。親父さんは引退して、現に七十四歳で靜かに餘生を送つてゐる。

青年辯護士は最初何を始めたか。彼は「當てずつぽう」と「行きあたりばつたり」の遣方を先づ征服するに努力した。彼はよく「何故產業經營といふことが一つの職業の如く發達せしめられぬのだらう」と疑問を投げる。

能率主義の提唱者フレデリック・W・テーラーの令名を聞き彼はテーラーを訪ね以後數年引續きテーラーの進言を受けた。

次に彼は職工を叱ることをやめた。經營者は全部に就て責任を負はねばならぬ。人を叱るのは

やめねばならぬ。

彼は人事課を設けて職工の雇入のみならず、其教育と保護に當つた、これによつて彼は勞働廻轉率を一五〇から三〇％に低下した。

幹部としての務めは教へることで命令したり意見を述べたりするものではないと彼が云つたことがある。

企畫部を作り次で進行部を作つて工場の運轉に澁滯無からしめた。それから作業に關して種々の調査を行つた結果作業能力を高める數多の方法を發見した。

四年たたぬ間に彼は就業時間一週五十四時間を四十三時間に短縮し同時に給料を四〇パーセントを增し生產高を四三パーセント增大した。

各人一人當りの標準仕事高を定め若し職工が自分の割當てを早く仕上ればそのまま歸宅することを許した。

だから優秀な職工は早く歸宅した。閉場の汽笛などは彼の工場では吹かぬ。大抵の職工は朝七時半に就業して四時半には歸る。土曜は全休、但し仕事がのろくて時間外勤務をして埋め合せをしようとする職工だけを特に働かすことにしてゐる。

四時半後は、職工は一人殘らず會社の費用で他の別の作業を稽古する爲めに居殘ることができる。だから多くの職工は一つの作業でなく甲にも乙にも熟練するといつた風であるから急需の際には甲乙いづれの部にも融通がきく。

ボーナス制度にもリチャード・フェーイス一流の信條がある。彼は次の六つ以上を與へる。

(1) 生產ボーナス　全職工の十分の七へ與へる。

(2) 品質ボーナス　一〇パーセント。

(3) 皆勤ボーナス

(4) (所謂)忌引ボーナス　病氣又は事故に對し。

(5) 年功ボーナス　勤續年數に對し一週一志、例へば四ケ年勤續者は一週四志を特別手當として與へる。

(6) 申告ボーナス　職工にして退社の意志あるものにして六週前に申出でたる場合は全給一週間分のボーナスを與へる。之は會社をして轉職又は留任勸告の猶豫を與へるからである。

彼の工場には六〇〇人の職工がゐる。大部分婦女子でいづれも非常に滿足してゐて、ストライキなどは現在到底考へ得られぬ有樣である。

「メリーさんが自分の與へられた仕事を好むやうにどうしてあなたは仕向けますか」といふ質問に對し彼はどう答へるだらう。「凡てはメリーさんの感じ一つに歸するのだ。若し好きならそれでいい、仕事は遂行されるのだ。所が若し好まなかつたら、君の計畫は阻止される」とは彼の答へだ。

メリーは色々の原動力の鍵だ。何よりも彼女の望むものはお金だ。それだけかと云ふと左樣ではない。樂しみ、友達づきあひ、よい待遇などもほしい。とフェイスは說く。

毎日晝食後女達は遊戲する。皆が皆跳ね廻る。重役、營業部長、職工、訪問者——等皆遊ぶ。或日は綱引競爭、或日はボール投げ、競爭、音樂會といふことになる。

フェイス自身はといふと遊戲のまん中に上衣も着ず帽子も冠らずじつと靜まつてゐる。——心からの大歡喜であらう。

此衣服工場には未だ曾て勞働問題が起つたことが無い。此問題は解決されてゐるのだ。階級意識と階級鬪爭とが全然姿を見せないのだ。

これが生產及經營の正しい道を極める爲めに苦勞して之れを實行に移した處の青年辯護士によつて成就されてゐるのだ。

順々に土地を拵へて行く男

英國の請負師ならフランク・ファーストの名は誰でも知つてゐよう。彼は海岸を埋立てて埋立地を作る仕事をやつて來たが現にアメリカのフロリダにあるエヴァグレーヅの排水工事をやつてゐる。

名前が示すやうに彼は獨逸人である。彼氏の如き人は先づたんとはない傑れた人である。

兩親に伴はれてアメリカへ行つたのが二歲のとき、父は勞働者で大のカイゼル嫌ひ、悖達がカイゼルと爭ふのを避ける爲めにアメリカへ逃げたのだと云ふ。

現に彼はボルチモアに住んでゐるが六呎豐かな大男でスバシツコイ目と親切相な寧ろはにか

みやのやうな顔をしてゐる。

今年は八十二の高齢だがまだまだ丈夫で働いてゐる。エヴァグレーヅといふ埋立地の排水工事をやつてゐるのだ。彼は海を埋めて新に二、〇〇〇、〇〇〇エーカーの立派な土地を作つたのである。

フランク・ファーストが何よりも好きなのはいくらでも土地を殖やすと云ふことだ。過去五十年そのことばかりやつて來た男だ。

も一つ土地と同じやうに人を作ることも大の樂しみである。彼は敗殘の人々數千人に救ひの手を與へてゐる。

誰でも不運でへたばつた人はフランク・ファーストの所を訪れるがいい。そして自分の話を語るのだ。話に嘘があつたら直に看破されるがそれがほんたうで唯好運に惠まれないだけだつたらフランクは心から同情し先づ五弗紙幣をその人の懷中へ押し込んでやる。必ず仕事も與へる。

極く最近迄ファーストは大きな請負會社の取締役會長をしてゐた。彼が辭職した時重役會は在社中の功勞に酬ゆる爲め五〇〇〇磅贈呈を決議した。丁度鐘紡が前社長武藤山治氏に五百萬圓の慰勞金を贈與したのと同じである。だが後のことを聞いて貰ひ度い。

「ありがたう、だが私は金は欲しくないのです。自分で使ふだけは持つてゐるのです。もうそれで十分ですから」

と彼はハツキリ辭退して受取らなかつた。我が武藤さんと違ふことが判るでせう。彼は辛苦艱難して成功の彼岸に達した。大抵の人は此處で安堵して進歩がピタリと止まつて了ふ。彼の場合はさうでない。彼は成功の彼岸に蜿蜒と自分の全身を起上らすのだ。かういふ人は滅多にあるものではない。

彼は大した教育は受けなかつた。九つの年から働きに出かけ、煙草工場に入つて葉切りをやつた。週給僅に四志だつた。

三歳の時父に死別れたので働きに出ても兎角餓ゑる勝ちであつた。母はゲートルのミシン掛けをして僅かな賃銀にありつき一家を支へたのだから文字通り赤貧洗ふが如くであつた。

二十三になつて彼は彼に相應はしい少女と戀を語りそして結婚した。二人の持つてゐた金は合計で二〇志！　それで新生活の皮切りをやつたのだ。

彼は讀書を好み、特に愛好した作者はチャールス・ディッケンスであつた。

「僕の學問と哲學とはディッケンスから得たものだ、いくら御禮しても足らぬほど御蔭を蒙つてゐる」

と彼は述懷してゐる。ディッケンスの作物の中でも小さなドリスを一番よく愛讀した。一部はきつと寢床の側に置いてあつた。

ディッケンスがフランク・ファーストに英國氣質を注ぎ込んだものと見える。ディッケンスは不運な人や——かよわい小さな子供等を憐れむことを教へた。ディッケンスは富と智の眞價は自分達の仲間をよりよくする爲めに役に立てる所にあると教へたのだ。

一例を擧げると彼は毎年子供等の學ぶ學校數ケ所を訪ねて兩親の貧しい悧巧な兒童に會つてみる。さうしてさう云ふ兒童を自分のところへ伴れ歸つて彼等の爲めに第二の父となつてやるのを例としてゐる。

「僕の所へ來た子供はみんなできがよくて何より樂だ。僕は子供等を信じ切つてゐる。みんな正直で勤勉だよ」

と彼は子供等に就て語つてゐる。今日から云ふと子供達から出て實業界財界に於て知名となつてゐる人が幾人かあるといふことである。

巨人と云つて少しも過言でないのが此フランク・ファーストその人だ。眞に神の使ひのやうな人だ。

フォードに一泡吹かした男

シボレーを以てフォードに對抗しヘンリー・フォードをして舊型を取毀し新規のものを作製することを餘儀なくしたのは誰あらうリチャード・H・グラントである。

グラントは一九二四年來シボレー自動車會社の販賣部長を勤めてゐる。四年間に彼は今迄の五倍賣つた。——一九二四年の二五〇、〇〇〇臺から一九二八年の一、二二五、〇〇〇臺と。

斯くして彼は一躍世界第一の販賣部長に飛上つた。一體誰がこれ以上賣つたことがあるか。

筆者は知らぬ。

日本では勿論ヨーロッパでも餘りグラントのことが知られてゐない。日本の雜誌や英國の雜誌で彼のことを書いたものを見たことがない。けれども米國の週刊雜誌セールズ・マネー・ジメントには彼の遣方が詳しく出たのを見たことがある。

彼はスコットランド系のアメリカ人である。——富裕な兩親を持ちハーバード大學で學んだが決して馬鹿者にならなかつたことは其後の彼が證明する。

三年間彼は電話器の販賣員となつた。それからナショナル・キャッシ・レヂスター（金錢出納登錄器）會社に入り九年でもつて販賣部長に漕ぎつけた。

第三の仕事が更に難事だ。デルコ・ライト會社が彼に農家に電燈裝置の販賣方を依頼したのである。當時かういつた種類の電燈裝置製造者は五十軒もあつて全體の賣上は一〇、〇〇〇以上を出なかつた。

若いグラント——此時三十七歲——は自分の會社の製品を二五、〇〇〇賣つた。彼は自分で出かけて行つて新しい販路を拓いたのである。

第四の仕事が電氣冷凍器の販賣である。ゼネラル・モーター會社が彼にフィギィデエヤ式冷凍器の販賣を依囑したのだ。今度も彼は新販路を開き鰻上りに販賣高を增加した。

その次は——諸君も知つてゐる通りだ。——心に決する所があつた。ヘンリー・フォードに一泡ふかしてやることがそれだ。シボレー自動車會社の販賣部長として招請に應じ彼は受諾した。最初の年彼は倍賣つた。一九二五年である。次の二年に彼は更にそれを倍賣つた。一昨年は更に一二・五パーセント多く賣つた。——一、二二五、〇〇〇臺の自動車を賣つたのだ——これは英國全體の自動車數より多い。

所で彼の販賣の遣方だが、これは凡ゆる販賣員の以て範とすべきもので大體こんな風である。彼の考への中心は計畫することである。「計畫！　計畫！　計畫！」彼は常にかう云ふ。販賣員の要訣は彼の考へによれば主として先見の如何にある。とつおいつ思案する。止むを得ずにやる。やり變へる——皆大禁物だ。建築技師が建築物を設計するやうに販賣運動といふ建物を建てるにも設計が要る。此設計が卽ち彼の云ふ計畫だ。

販賣店を大事にせよ。これが彼の遣り方の一つである。彼は立派な販賣店を持つことを非常に大事視してゐる。彼は販賣店を自分等と同じ社員であるかのやうに擁護する。廣告を以て販賣を

援助し會計のことにも何かと世話を焼いてよかれと圖る。そして求める數だけを賣り決して押つけることをしない。

彼は販賣店操縱に當つて多くのアメリカの製造者のやうに無慈悲な苛酷な方法を用ゐない。親切と公平な取扱ひ。これで以て彼は立派な販賣店を獲得してゐるのだ。つまり彼は販賣店は激勵すべきものであつて踏みつけるものではないと信じてゐるのである。

現に彼は四千五百の販賣店と、五千五百の準販賣店とを有してゐる。一ケ月一回の報告を貰ふ一方監督又は幹部養成に當つてゐる五十三人の優秀、練達した販賣員を使用して訪問したりして親密な關係を維持してゐる。

彼は販賣店の爲めの心得書や活動映畫や多種多樣の案內、ポスター、陳列カードを作つて之れを配布し、いつも新しく熱心な販賣店を保持することに努める。特に成績のよい販賣店を表彰することを怠らぬ。

「何でもカツキリした豫定と販賣基點とが無ければならぬ」とは彼の不斷の名言である。

グラントは背の短い、當りの軟かな叮嚀な口調の男で今年五十三、將に働きざかりと云ふべきである。道樂は三〇〇エーカーの農場を經營しなんでも物の生長を見て樂しむといつた具合。

彼の遣り方は前述の通り自動車だけではない。どんなものの販賣にも利用できる。彼は電話器具を賣つた。金錢出納登錄器を賣つた。農家向きの電燈裝置を賣つた。電氣冷凍器、それから自動車を賣つた。

レース、木綿、石炭、鐵、銅、羊毛どんな種類の商賣でも彼の遣方は利用される。

販賣員たることに何の主義主張も無いと云つたり、或はあつても他に教へられぬものだと云ふやうな愚かな人々に對して四ケ年間に五倍も賣上げた此リチャード・H・グラントの話を聞かせたい。グラントの話を聞いてもなんにもなりやしないと敢て云ひ得るかどうか。

獄中に呻吟しながら考へた男

グッドイエヤーにとつて、來る日も來る日も憂鬱な、希望のない日ばかりだつた。商賣は彼の思ふやうには行かない。することが爲すこと、彼の目算と違つた。そして、到頭、彼は破產してし

まつたのだつた。

商人にとつて、破産位みじめなものはない。彼は、何うにかして再起しようと苦心したが、何うしても彼の努力は酬いられなかつた。

限りない失望が彼を襲つた。今は何うして暮してよいかさへわからない彼であつた。

ある日、彼はブラリと外へ出て街を歩いた。

不圖、ショーウヰンドの中に彼は印度ゴムを見た。

當時では、殆ど價値のないものと思はれてゐたこの天然の商品が、妙に彼の心をとらへたのだつた。

さうして、その後、グッドイエヤーは不圖、あるゴム商人と話をする機會を見出したのだつた。

ゴム商人は言つた。

「ゴムといふものはきつと、多くの使途のあるものに違ひないと私は考へて居りますよ。しかし今はその應用の用途が見つからない爲に、ゴムの生産業は非常な苦境に陷つて居るのですよ。何んとかうまい方法はないものでせうかね」

それは疑ひもなく事實であつた。

若し自分がこの天然の商品の應用とその用途の祕訣を發見することができたら自分の苦境も一確かに救はれるのに——

と考へるのだつた。

しかし、グッドイエヤーは、そのことを落着いて考へる餘裕がなかつたのだつた。

商賣上のゴタゴタは尙も彼を、惱ませたのだつた。

いつか忙しさにとりまぎれて、ゴム應用の用途のことは、まるで彼の念頭をはなれてしまつたのだつた。

すると、遂に彼は、しみじみとそのことを考へさせる機會がやつて來た。而も、その機會は大きな不幸の衣を着てやつて來たのだつた。

それは、彼はその負債の爲に遂々とらへられて、數年の間、刑務所の近くに住むことを命ぜられ、時々そこへ投ぜられて暗い獄窓の中に、呻吟しなければならなかつたのだつた。

彼はそこで、凝乎と長い間、彼の頭の中にわだかまつて居た、ゴムの利用法を考へたのだつた。

そして長い間の獄中生活のうちに、彼は遂にゴムの多くの利用法を案出したのだつた。

斯うして、不幸のどん底に沈んで居たグッドイエヤーは見事に浮び上ることができたのだつた。

今日のあの驚くべきゴムの應用――その一切のもとは、グッドイエヤーが、暗い獄窓の中で頭をひねつて考へ出したものなのだつた。

かうして彼は、財産を築きあげる礎を作つたのだつた。

タイヤの職工だけで出來た町

ボール・リッチフィエルドはイギリス系のアメリカ人である。

壯健な物靜かに話す極く生一本な彼はグッドイエヤー・タイヤー會社の社長である。各國に支店、出張所を持つてゐる。

グッドイエヤー・タイヤーは大抵の人が知つてゐる。けれどもグッドイエヤーの職工一〇、〇〇〇人が住んでゐる大した町がある事は餘り知られてゐない。自然に金が殘るやうにできてる仕組みと云へば、先づ此町などは第一に指を屈せられるものであらう。

と云ふのは此町に四八、〇〇〇人の所謂グッドイエヤーの人々が働くと共に眞の意味での能率主義を遵奉して生活をしてゐるからである。彼等は一意家庭の爲めに、幸福の爲めに、生きてをるかの如く見える。だから自分達の生活費を償ひ且それより少し餘分に儲けるといつた程度にゴムのタイヤーを作るのだ。

グッドイエヤー・ハイツこれが町の名である。若しグッドイエヤーの人々が全部住んだらハリファックス位の大きさの町になるのだが全體の五分の四といふものは他所に住んでゐる。

此町はオハイオ州アクロンの町にあるグッドイエヤーの工場から一哩ほどの所にある。面積四五〇エーカー、道路の延長十八哩に達する。電車は通つてゐないが立派な乘合自動車が通つてゐる。

住宅は會社の所有でなく住む人の所有になつてをり、町には所謂地主なるものが無い。

グッドイエヤーの職工なら四十五磅現金を拂ふと二〇〇〇磅の家に住はれる事になつてゐる。あとは毎月十五磅宛支拂つて行く。五年經つと會社は四五〇磅を割戻してくれる。九年で月賦拂

が皆濟となり會社は權利證書をくれる。

グッドイエヤーの人々は工場の仕事を少しも苦しいとは思はない。砂糖の衣を冠せた良藥位に心得てゐるのだ。遊戲、健康、友情、自尊は工場で働くと同じやうに必要だと信じてゐる。だから自分達各々の間で凡ゆる遊戲の設備、場所を作つてゐる。

廣い遊戲場がある。その中には池もある。テニス・コートもある。野球場もある。ダンスをする演舞場もある。

尙又グッドイエヤー・ホールと稱する廣大な建物も持つてゐる。恐らく、職工達のものとしては世界一であらう。千六百八十六人を收容する劇場もある。體育場もある。撞球場もある。音樂室、レストラン等々もある。工場の勤務が三交代制をとつてゐるから此ホールは晝も夜も開放されてゐる。日夜人々が群集する一大慰安の殿堂たる觀がある。

ホールの前にグッドイエヤー銀行がある。此處では二二、〇〇〇人の職工は勞働者であると同時に資本家である。同社株三、〇〇〇、〇〇〇磅分は彼等の所有に係るのだ。

グッドイエヤー工業大學なるものがあつて教授一〇〇人、生徒五〇〇〇人を算し一文の授業料も徵收しない。グッドイエヤー社が幹部社員養成の機關であること云ふ迄もない。

洋服屋あり、雜貨屋あり、保險事務所あり、遊資相談所あり、病院あり、老年者養老保安制度あり、社員勞働者の爲めの施設殆ど到らざるはない。

更に尙特に注意すべきは「靜かな別天地」と云はれるものがグッドイエヤーの諸施設の中にある。是は七〇〇人の孃者の收容所を指すのだ。町から離れた所にあつて、此人々達だけの敎會と俱樂部と遊戲場とがある。世界最大の孃者の集合である。人々は孃者をサイレントと呼んでゐるが彼等はなかなか懷工合がよく全體で同社株一二五、〇〇〇磅も所有してゐる。

職工達は經營に對しよく色んな進言をすることを許されてゐるが、今日迄の提案數實に五、〇〇〇件、その中二、二五〇件が採用されてゐる。一青年の如き提案十八種も採用された。

グッドイエヤーに勤める男女にして法律的の相談を必要とする時は會社專屬の辯護士があるから無料で色々の相談に乘つてくれる。

之を要するにグッドイエヤーの人々は忙はしく働く一方幸福であり滿足するやうに設備されてゐる。しかも求めて得らるべき最も進歩した完全な設備と云ひ得る。グッドイエヤーの工場には

ボルシェヴィストが居ない。偶々赤化を企んで入り込んでも直ぐ水を失つた魚のやうになつて匙を投げる。

此會社では重役も働く、職工も働く、勞働も資本もない。あるのは物の道理を辨へ立派な仕事をして生計を立て、暇のときは愉快に遊ぶ人々だけである。

潰れさうな會社を起して歩く

會社が管財人の手に移ると、きまつて清算の運命に立至る。管財人は十中の八九、辯護士か計理士である。

辯護士だつて計理士だつて販賣員でもなければ事業家でもなし所謂商賣人でもない。何時もやることと云へば競賣でとれるだけとつて了ふのだ。

破產の會社を掃溜へ放り捨て廢棄物として賣るのである。檢屍の役人と何等選ぶ所が無い。

こんな風にして整理ずるのだから十圓のものが二圓その半分を手數料として取つて株主へ一圓を拂ふことになるのである。

よく物事の判つた職業的な管財人はないものだらうか——蹶つまづいた會社を再び起き上らせる所の算數に明るい人は一體無いものか？

いや、ある。少くともさういつた風の人が一人ある。彼の名を、W・L・デスノイエヤーと云ふ。管財人は何も眞の値打も滅茶苦茶にすべき必要がないことを實證したのが彼である、破產した商賣も救ふことができるし遣り方によつては繁昌することを明かに示したのである。

デスノイエヤーは、大戰中米國軍隊に物資を供給したフランスに於ける四〇會社を管理した人だ。

質實剛健な人——これがデスノイエヤーである。四二會社を管理し終せ紐育に歸つて銀行家となつた。

銀行業は彼にとつては餘りに容易な仕事であつたと思はれる。彼は製造業に手を染めた。一九二二年のことである。彼が進んで絶望に陷つた「リヂナ社」の管財人となつたことがそれである。

デスノイエヤーは商賣人である。强制處分を利としない。他の管財人のやうに會社を壞すので

はない。其處で窮狀にある會社に自ら飛込み其の救出しを開始した。

此會社はヴァキュウム・クリーナーや、演奏用ピアノ、蓄音器、印刷器、自動奏樂器等々を作つてをつたのである。調べてみると品質や大きさの違つたものを合せると四十二種も作つてゐることを發見した。——失敗の原因はこれであつた。

デスノイエヤーは云つた。「たつた一つのものだけ作ることにしよう——一色一型、そこで作るものはヴァキュウム・クリーナーにしよう」と。

不用になつた機械は悉く廢棄して拂下げヴァキュウム・クリーナーだけ何千——大量生産——も作れるやうに設備を改めた。

其次に彼は全販賣員を集合して販賣法のやり直しをやつた。ヴァキュウム・クリーナーを賣るやうに緊張せしめた。

廣告もした。今度賣出されるヴァキュウム・クリーナーに就て語り、どうしてフォードの自動車のやうに作り出されるかに就て說いた。

四十二種のものを悪く作るよりも全力を一商品に集中して立派な品物を作つたのである。

結果はどうであつたか？

三年にして賣上一年七四、〇〇〇磅から一〇〇〇、〇〇〇磅に增大したのである。凡ての借金を拂つた。信用を恢復した。工場を擴張し雇人を增し賃銀を增した。

竟に現金二〇、〇〇〇磅を剩すに至つた。未だ嘗て彼より能率を上げた管財人あるを知らない。

彼は會社の財產を犧牲にすることを肯じなかつた。彼は破產の會社を起死回生せしめて前よりも十三倍も大きなものとしたのである。

彼は管財人の世界的チャムピオンであるし——偉なる哉デスノイエヤー。

榮養劑で大儲けをしたお醫者

世界で一番腕のたつしやな醫者は誰かと云つたら自分はアメリカで著名なバトル・クリーク・サニタリアムの所有者ジョン・パーヴェイ・ケロッグ博士を擧げるに躊躇しない。

博士ケロッグは九〇〇年前彼のウィリアムに從つて英國にやつて來たジョン・ケラックの後裔

である。

世界多數の富裕になつた醫師と同じやうに彼も亦榮養食物を以て金を作つたのである。

實を云ふと彼はどつちかと云へば醫者と云ふよりも商賣人としてまた教育者として活躍した。

彼は誰の說を祖述するといふことなく極めて獨立不羈に自分の考へを實行しこれを達成する才能があつた。

彼の生涯の物語は。一つの理想を追ふ爲めに此の世の生を享けた貧しい少年に關するフェヤリー・テールである。

小さな不味な農村に生れた。十四の年、村の先生になつた。

彼は熱心に讀書した。好きな著者はセネカであつた。そしてセネカの——「眞理を求めて善事を爲せ」——と云ふ文章を讀んで深く心に感銘した。

金もなく教育もない十四の少年が小さな木造小屋で十二三人の子供達を教へながら自分の一生のモットオとして「眞理を求めて善事を爲せ」といふことを體得することにしたのであつた。

當時彼は肺弱い少年であつた。肺が惡かつた。兩親はとても生長すまいと斷念してゐた程であつた。

そこで少年ジョニイ・ケロッグは健康問題に於ける「眞理の探求」を志した。自分の身體に就て研究を始めた。そして醫科大學に行き醫師となつた。

彼は外氣の中に眠ることによつて自分で肺病を治癒した。五十五ケ年彼は戸外に眠つた。彼のリバーハームもうさだつた。戸外に眠ると云つてポーチとかヴェランダに眠るのではない、全く星の下に眠るのだ。冬の間は屢〻かぶつてゐる夜着が雪に覆れてゐるのを見る爲めに起きた。尙又彼は五十五ケ年間穀物や果物や野菜を食べて生活した。一日二回しか食事をとらなかつた。

彼は病氣の根原が大腸内にバクテリアが發生するからであると信じた。そして肉類がバクテリア發生第一の原因であると考へた。

ケロッグは長年食物の研究に從事した。カロリー學を基礎として最初の獻立表を作つてみた。

彼はグラハム、麵麭の發明者シルヴェスター・グラハムの著書より學ぶ所が多かつたと人に語つてゐる。獨特の朝食の一種を創製した——それは麥と玉蜀黍を碎いて粉にし煮たきして直ぐ喰へるばかりにしたものである。

と同時に彼は廣告の魔術を發見した。數年ならずして彼は巨萬の富を作つた。金を握ると共にやつたのが世に喧傳される「健康の殿堂」バトル・クリーク・サニタリアムである。今此處には醫師看護婦合せて一五〇〇人も働いてをり患者の數一四五、〇〇〇人を超える。彼の夢が實現したのだ。米國で一番有名な病院となり了せたのだ。大抵の病院が左樣であるやうに此病院も全然自營主義で經營されてをる。施療患者も世話してゐる。

ケロッグ博士の道樂は子供の面倒を見ることである。今寄るべのない四十二人の孤兒を引取つて身體を丈夫にすると共に敎育しながら世の中へ出してゐる。

斯の通り彼はローマの哲學者セネカから學んだことを最大限迄實行したのである。一生涯彼は眞理を探し善事をしたのだ。

セネカの言が彼を此の通りに仕上げたのである。誰も此一文を讀んで一生の軌範を求める人があつたらジョニイ・ケロッグのしたやうにおやんなさいと勸めるに躊躇しない。眞理を求め善事を行へと云ふことよりも立派な一般的な格言は他にあらうか。

銀行の給仕から北歐の石油王

お惚巧で勤勉で駄法螺は吹かず、喧嘩はきらひ——これがオランダ人の通り相場。彼の黃金時代に他民族の亂痴氣騷ぎに乘じて現れて來たものと云はれる。

けれども玆でオランダ人の穿鑿するつもりではない。只オランダ人の一人——ロイアル・ダッチ・シェル・メキシカン・オイル合同の總帥サア・ヘンリ・W・A・デターディングその人に就て語るだけだ。

サア・ヘンリ・デターディングは現在英國に歸化してゐる。ヨーロッパとアジアのロックフェラーが彼だ。現に百二十五の石油會社の社長となつてゐる。

彼は現世界に於ける十二大實業家の一人だ。と云つても彼も最初は無一文から出發したのだ。——友達に助けられたのではない。——何等特別の利便も與へられた譯でなく——自分の腕と幸抱の外は何ものもなかつたのである。

何處で生れた？　アムスターダムの裏町で。
父親は？　下つ葉の船乗りだ。
社會への踏み出しは？　銀行の使ひあるき。
どうして乘り出した？　偉いものにならうと踏ン張つたのだ。
彼は三十二まで銀行に勤め上げたが自分の働く所としては小さ過ぎると考へた。もつと大きな仕事をやる自信があつた。其處で辭職して昔の東印度會社と同じやうなネザーランド貿易協會に就職を申込んだ。
そして遣られたのがオランダ領の植民地、下級事務員でしかなかつたが販賣員としての首途であつた。
彼は期待されたより以上の仕事をやつてのけた。嚢の中の錐はいつか現れる。遂に會社の有力幹部に見出されたのが運を拓くキツカケであつた。
間もなく販賣員となつた。メキメキ腕の冴えを現して天晴な販賣員振りを發揮し始めた、彼は油の販賣には獨特の手腕があつたのだ。彼の目ざす敵はスタンダード石油會社であつた。

一、二年して彼はロイアル・ダッチ社の販賣部長に昇進してゐた。同時に世界最大級の名販賣部長となつたのである。
彼の遣り方は、もう長年お客となつてゐる人との應待には一日七時間を限りあとは專ら他社の顧客を奪ふために用ゐた。新規の客を獲得する爲めにはありと凡ゆる方法を講じ賣値を切つた。これが確實な客と見たときは一樽の利益僅か一錢にしかならないでも賣つた。
ロード・カウドウエイを買收したのも彼である。カウドウエイといふ人は若し自分が進んで乘り出したら石油業の王樣となれた人なのだ。彼はカウドウエイに一五、〇〇〇、〇〇〇磅を與へ永久に石油業から引退させて了つた。
また彼は今ロード・ビアステッドと結びシェル系を買收して自分の傘下に集めた。
彼は最近獨逸の石油會社買收談を進めてゐる。あと二十年彼が長生きすれば恐らくアングロ・ペルシアンとスタンダード石油をもきつと其手中へ收めることだらう。現在彼は米國に於ては石油會社五つ、油田二四二、〇〇〇エーカーを所有してゐる。
今年六十三歲。もう髮は銀灰だ。眞黑い眼、淺黑い顏、丁度長く東洋に住んで活躍したことを

證するやうだ。彼は人なつつこく微笑む。物軟かな一面には手剛い所もある。柔しいと共に力強い、その上に彼は立派な販賣員であつて今も尚自分の事業の擴張に堪えず目を見はつてゐる。

彼の事務所は倫敦の英蘭銀行の近所にある會社の五階にあつて、一寸傾斜した妙な恰好の圓いテーブル卓子の所に腰を据ゑる。机の上には世界地圖がある。彼の會社はペルシアを除く全世界の到る處の石油會社に關係を有してゐる。彼は世界の石油貿易を支配する石油會社の聯盟を作る迄は滿足することができないのだ。

さて彼は五十年前貧しい少年だつた。アムスターダムの裏町の小さな家の中で彼はチラつく蠟燭の光りで旅行記を飜つてゐたのである。

發明の價値を知つたクラーク

若いアンドリュー・カーネギーは、燃えるやうな希望を持つて、ヒッツバーグの鐵工場に働いて居た。大鐵工場の名もなき一事務員にしかすぎなかつた彼は、一生懸命に與へられた仕事に勵んで居るのだつた。

それは、實に平凡なビヂネスにすぎなかつた。彼も亦、他の多くのサラリーマンと同じやうにこの大鐵工場の存續する限り平和に、その日その日の仕事さへ滿足に果して居さへすれば、パンの心配のない、あの典型的なクラークだつた。

彼の現在の仕事からは、この若いサラリーマンの胸をとどろかせるやうな大きな飛躍は望まれなかつた。地味なビヂネス、そして單なるロボットにしかすぎないクラークの生活だが。

だが、それでも彼は滿足しない譯には行かなかつたのである。

若い彼は、いつかは自分もこのやうな大鐵工場の主人になれることを夢見て、營々と仕事に精を出して居るのだつた。

若いサラリーマンの胸に、そんな大きな希望が燃えて居ること等、誰も知る者はなかつた。

そして、彼も亦その心に芽生えた野心を忠實な勤務振りに隱して、模範的な會社員と目されて着々と彼自身の鐵工場に於ける小さな地位を築いて行くのだつた。

或る時、彼は會社の命令で、英國に渡らなければならなかつた。若いカーネギーはこの旅行中

に知合の一英國人から、新しい鋼鐵製造法の實驗を見に行かないかと誘はれたのだつた。

旅へ出た彼はとても忙しかつた。彼の若い精力は、目まぐるしく彼を働かせて、ほとんど少しの暇もない程だつたのだ。

新しい鋼鐵製造法の實驗の話は、彼の忙しいビヂネスにとつては用のない話だつた。

「僕は忙しいのでね。それに、鋼鐵は私の方の商賣ぢやありませんからね」

と、彼は一應斷つたものだつた。

しかし、彼の友人は

「製鐵業者である貴君にとつて、これはきつと、何か爲になると思ひますがね、貴君はこんなことに時間を空費しては居られないと御考へかも知れないが、確に、そんなことはありませんよ。とにかく、新しい發明に對しては、尊敬して見て置く必要があると思ひますね――」

友人は、是が非でも、彼はその製鋼の實驗を見せたがつた。

それでも斷ると云ふことは、流石にカーネギーにも出來なかつた。

そこで、彼は不承々々に、その實驗を見に出かけたのだつた。

しかしその實驗は、この若い鐵工場の事務員の心を、深くうたずには居なかつた。

彼は、御義理で出かけたのではあるが、今は燃えるやうな眼で、その實驗を見まもり說明を聞いた。

彼の鋭い頭は、この時洋々たる鋼鐵界の前途を、はつきりと見つめることができたのだつた。

「大變結構な實驗を見せていただきました。私は、今に貴君に多くの感謝をしなければなりますまい」

と、實驗が終つた時、彼は晴れやかな顏で云つた。

カーネギーが見た實驗こそ、後に世界の製鋼法を根本的に一變させた、ペッセニー氏製鋼法だつたのである。つまり、この方法に依ると、從來、高價で使用しかねて居た鋼鐵が、普通の鐵同樣に安價に仕上るのだつた。

この實驗を見た時、彼の俊敏な才能は、はじめて輝いたのだつた。今、彼の眼前に大事業が、絕大の黃金が、轉がつてゐるのだ。

彼は、直に、その次の便船で歸國すると、同志を說いて、大鋼鐵會社を設立したのだつた。

かうして、彼は世界的の大富豪の一人になることができたのである。

一つの發明の、眞實の價値をはつきりと認めて、その機會を、また、うまく摑んだ彼の俊才が彼を成功させたのである。

新しい就職戰術で行つた男

アメリカは、ケンタッキイ州のある田舍町の新聞社に或る日、みすぼらしい少年が現れた。

「僕は給を貰きます、新聞の漫畫をやらせて見てくれませんか」

「ほう、給をね――」

主筆は興味深く彼を見つめた。

「給でなくても、何でもやれると思ひますがね、今のところ得意だと言へるのは、給だけですから――」

圖々しく少年は答へた。

「お給金は、大してあげられないが、まあやつて見給へ――」

何と言つても田舍新聞のこと話も早い。そこでこの少年はまんまと漫畫家になつた。

アーヴィン・エス・コップといふのが、彼の名だつた。

だが、このアーヴィン、間もなく漫畫を畫くより標題を書く方がうまいと言ふので探訪記者になり、二年間のうちに、めきめき腕前を現はして主筆にまでなつてしまつた。

と、そこまでは、トントン拍子にうまく行つたが、彼が主筆と言ふ名譽をになつて、たつた三ケ月經つただけで、彼の仕事は不必要であると言ふ理由でお拂ひ箱になつてしまつた。

殘念だが仕方がない。飄然と新聞社を出た彼、さてこれから何うして暮したものかと考へた。

だが、それからと云ふもの、何をしても、いい芽は出なかつた。

そのうち、彼は二十七歲になつた。放浪中に貰つた細君との間には子供が生れて居た。而もその子供は弱かつた。

そこで、彼は猛然と苦しい生活の中に立ち上つて紐育に出ようと決心したのだつた。

彼は妻と子供をジョルジア州に居る舅にあづけ、三百弗の金を借りて單身紐育に出て來た。

彼は毎日毎日、ニューヨーク新聞社をまはつて何か仕事をさせてはくれないかと頼んで歩いた。だが、何處の馬の骨ともわからない田舎者の彼を相手にしてくれるところはなかつた。二週間ばかりの間、彼は足を棒のやうにして歩いたのだが、何處にも就職口はなかつた。

そこで、彼は遂に腹を立ててしまつたのだつた。

當り前のことでは、とてもこの生存競爭の激しい都會で職を見つけることはできないのをつくづくと考へさせられたのだ。

「世の中の奴は、俺のやうな立派な新聞記者を見る眼がないのかな――」

そして腹を立てたコップは、遂に諸新聞の主筆達に當てて自分が世界一の新聞記者であると云ふことを力說した手紙を書いたのだつた。

――恐らくこれは貴殿にとつて二度とない機會であると思ひます。私は、貴社の待合室の壁紙の模樣を研究することに飽きてしまひました。私自身の價値を捨へ目に評價して見ても、この上貴社の給仕頭と押問答する氣にはなれません。もし、今直ぐ私をお雇ひにならなければ私は間もなく何處かへ行つてしまうでせう。そして貴社の新聞は、この夏の最中の暑苦しい中に味もそつ氣もなくて打ち捨てられて置かれるでせう。さうすれば、貴殿の今後には荒海の逆巻く大海のやうな底知れぬ後悔が次々と襲つて來ることでせう。招聘狀は、到着順に考慮することにします。切手を儉約するのは怠け者や職業的浮氣女のすることです。何卒表記のところへ電話なり、手紙なり、または使ひなりをお寄し下さい――

實に人を喰つた手紙である。だが、この手紙を受取つた多くの新聞社の主筆達の中には彼を狂人と思はなかつたのが居た。

その翌日、彼は四つの新聞社から口が掛つて來たのだつた。

かうして彼は見事、新しい就職戰術に成功した。その後八年の後彼の小說がイヴニング・ポストに採用され、やがて有名な小說家となることができたのである。

夢を實現させた放浪兒の努力

金儲けは、機會と隣り合せてやつて來る。アメリカ大陸の曠野を放浪して居る多くの放浪者の中からその機會を摑んで、見事巨萬の財産を築き上げた人物も、決して少くはない。

ジェームス・ジェー・ヒルも、さうした成功者の一人だつた。

彼はその少年時代に、アメリカの少年の誰もが抱いて居る東洋の物語りや、そしてその邊りの航海に憧れて居たのだつた。

彼は十八になると、水夫にならうと思つて大西洋岸に出かけて行つた。だが、そこには彼の望んで居た口は見つからなかつた。

それからと云ふもの、彼は處々を放浪して歩いてゐた。何の目的もなく若い元氣にまかせて、あの大陸の碧空の下を彼は飄々として放浪して歩いてゐた。

やがて彼はヴァージニア州のとある少さな町に流れついた。

そして、そこで彼はふと、その町に住んで居た昔の級友の一人が、今は太平洋岸に轉居して居て頻りに遊びに來いと云つて居たのを思ひ出したのだつた。

そこでヒルは考へた。

「よし、大陸を横斷して行つて見るか、若しそこで友達の父親が、東洋へ行く船の水夫の口を見つけ出してくれれば有り難い――」

それは、何と云ふ無謀に近い計畫だつたらうか。

大陸横斷の鐵道がまだなかつた頃である。彼はそれでもセントポールへ行けば、彼は獵人や商人達の隊商の群に加はつて、ロッキイ山脈を越えることが出來ると、かねがね聞いて居たので、彼はまづそのセント・ポールについた。

たのだつた。

やがて、あらゆる困難をなめ盡して、漸くにセントポールについた。

しかし、彼の賴みにして居た隊商は、最早出發した後だつた。

彼は呆然として、誰一人知るものもない異鄕に立ちつくした。

いかに若く勇氣があるからと云つてたつた一人で、ロッキイ山脈を越える元氣は流石に持つて居なかつたのだつた。

やがて、恐ろしい西北部地方の冬がやつて來た。

彼はやむなく、セントポールにとどまつて春の來るのを待たなければならなかつた。

しかし、ここで、冬を越す爲には彼は何かしら、職を見つけなければならなかつたのだつた。

天性の放浪兒も、この寒夜に尙も大陸を漂浪して歩く譯には行かなつかたのだつた。

そこで、彼はセントポールで、一つの職業を見つけた。

彼は鐵道へ這入つたのだつた。

鐵道の仕事は彼の興味を呼び起すに十分だつた。

長い間の放浪生活の經驗は、彼の東洋に對する少年の憧れから、その大陸を横斷する大鐵道が敷けたらなあ——と言ふ大きな夢に變つて行つたのだつた。

ヒルはここで、鐵道に這入つたといふ機會を、しつかりと摑んだのだ。

彼の鐵の様な意志、彼の豪快な覇氣そして強靱な體力で、彼はめきめきと地位を築いて行つた。

さうして、彼は遂にその大きな夢をあらゆる困難に打ちかつて、實現させたのだつた。

アメリカ大陸の半ばを開發した、あの有名な北太平洋鐵道の建設者として、遂には巨萬の富を築くことになつたのだつた。

金に見放されて破産を免れる

興行は安全なる金儲けの一法として數へることができるだらうか。古來見世物業は最も危險な商賣として、眞面目な事業家の多くは之を避けて來た。

しかし、其の事業の何たるを問はず、最も成功せるものは最も先見の明があるものである。見世物興行師たるものも、この先見の明と不明とで其の成功、不成功が岐れる。卽ち興行師たらんとするものは、先づ何よりも娯樂の流行の變遷の兆を逸早く看破し、次に來るべき娯樂のトップを切る——、そこに大なる成功が伴ふのである。

だが、思惑が外れたら何うだらう、其の時は大なる缺損だ。ウンと儲かるか、ウンと損をするか、興行師としての興味がそこに百パーセントだ。危險な商賣として嫌はれるのがここにあり、從つて誰もやつて行ける商賣でない。已れに自信のあるものだけがやつて行ける商賣なのだ。

チャールス・コックランは俳優であつた。けれど、俳優では大して金儲けもできないことを知

つて興行師になつた。商賣が商賣だけに彼は波瀾曲折の生涯を送つた。ウンと金を儲けたこともあり、ウンと損をしたこともあつた。更に興行師として非常な人氣に惠まれた。嘗て破産の憂目を見たとき、知友の多くから小切手や紙幣を同封した手紙を貰つて幾夜を嬉し泣きに泣き明したこともあつた。

十六歳で初めて舞臺に立ち、後アメリカへ渡つて一旗擧げようと紐育へ辿りついたのが一千八百九十年、恰度、田舍の青年が笈を負ふて東京へ着くといつたやうな、それにも增して彼の心は將來の華々しい己が舞臺姿に魅せられてゐた。が、渡る世間は鬼だらけで、彼は失業に次ぐに失業といふ窮境に陷り、遂にシカゴの木賃宿の冷いベツドで、つくづく幻滅の悲哀を味つてゐたものだ。

ところへ、偶然の機會が、當時アメリカ第一の俳優として好評のあるリチャード・マンスフィルドと知り合ひになつた。將來興行師として成功した彼は、この好機を逃さなかつた。

「よし、俺の出世の緒口を見つけたぞ」

と、心の中に叫んだ。何といつても當時のマンスフィルドは英國劇壇に於けるアーヴィングの如く、アメリカ劇壇の大御所であつた。彼は遂にこのマンスフィルドの心を完全に捉へた。そして請はれて彼の祕書となつた。この祕書をやつてゐる中に、彼は自分自身をハツキリと見詰めることができた。

「よし、俺は俳優を思ひ切つて將來興行師にならう」

かう思ひつめると矢も楯も堪らなくなつた。そこでマンスフィルドに心事を打明けて適當な上演脚本を探しに、七年ぶりで英國へ歸つた。倫敦でエレン・テリーに會ひ、又ジョージ・バーナード・ショオなどと會食したりして機會を狙つてゐた。そして間もなく有名な歌手テンプラ・サックスの興行主となつて第一のスタートを切つたが、それが幸にも大當りだつたので初めてチャンスレー通りに事務所を設け、愈〻劇場及び寄席の興行主としてのスタートを切つたのである。

私は前にも言つた如く、興行師は娯樂の流行を先見して、次に來るべき娯樂のトップを切ることに成功する——と、コックランは不思議な程、この成功の條件を具備してゐたと見え、それ以來の彼の興行は到るところ大當りで、遂に現代一流の興行師となつた。

どの興行も、彼自身でさへ驚愕すべきものであつた。彼の手を經て有名になつた第一人者の手

錠王ハウドニの演技を見たとき彼は言つた。

「それは私の經驗した中で最も戰慄すべきものだつた。ハウドニが水面に浮ぶまでには可なり時間がかかつたが、到頭彼は浮び上り、まつたく身輕に川岸まで泳ぎついた」

と、吻としたものだ。それはハウドニが手錠を嵌めて袋の中へ入り、河中へ飛び込んだ演技であつた。興業主それ自身が戰慄する程の眞劍の演技に、觀客の人氣が湧かないといふ筈はない。

更に大當りを取つた興行に露西亞の力士の相撲があつた。濠洲切つての巨人の相撲があつた。最後に拳闘があつた。これらは主として力と技術の個人演技であつたが、集團的娯樂興行としては先づ「盛り場」をつくつたこと。輪付滑走場を始めたこと。「一寸法師の街」をつくつたこと等等、いづれも人の意表に出づる珍奇のものばかりであつた。

「盛り場」――この言葉を作り出したのはコックランであつた。それ以來此言葉は非常に流行するに至つた。彼の最初に經營した「盛り場」はオリンピヤで、そこには廻轉木馬や梛子投げや、見世物、曲馬團等のある一種の大衆娯樂場である。ここで一等評判になつて多數の觀客の目を惹いた見世物は、サッコーといふ斷食男であつた。彼は密閉された硝子の圍ひの中で、ただ水ばかり飲んで五十二日間を過した。ところが此見世物が人道上許すべからざるものだとの非難が起り、コックランへ中止したらよからうと進言した。とコックランは

「私達は其の構内をサッコーに借したゞけで若し無理矢理に追つ拂ふものなら、不法行爲として彼から訴へられるかも知れぬ。」

と思案に暮れたものだ。といつて此儘打棄つて置く譯にも行かず、顧問辯護士の意見をも聽き兎に角一應立退きを要求し、若しサッコーがそれを承知しなかつた場合、力づくで追ひ出すより外に方法はないと決めた。この經緯が一度傳はるや、倫敦市民は多大の興味を以て事件の成行きに目を注いだ。

サッコーは案の定、立退きを拒絶したのでコックランは手斧で其の扉を打ち壞さうとしたが、それはサッコーの顧問辯護士の爲めに差止められた。コックランは

「まあいい、私達は最善をつくしたんだが、此の男が餓死したいんなら、どうでも勝手にするがよい」

と匙を投げた。この事件が、それでなくてさへ興味を唆られてゐた全倫敦市民に對して驚くべき廣告となり、サッコーを見んとて市民の誰もがオリンピヤへ殺到した。入場料は最初六片であつたのが一志に上り、次いで二志半になり、斷食を破つた日は五志にまで値上げされ、それでも觀客は犇めき合つた。

――この偶然の出來事が、いかにコックランを面喰はしたことであらう。そして其の解決に逢方に暮れながら彼の儲けた金は巨額のものであつたらうことを思ふと、彼の不用意が却て先天的に興行師としての資格を備へたもののやうに考へられぬでもない。勿論、こんな百パーセントの廣告は豫め計畫的にやつて退けられるものでないことは敢て蛇足を添へるまでもない。

拳闘が世界的演技として擡頭するに至つた裏面に、彼の數度の興行が與つて大なる力のあつたことは事實である。逸早く拳闘の興行價値を認めたコックランは、その興行毎に成功したのであつた。その中でもベケット對ゴッダードの勝負を行つたときには、彼はベケットに二千五百磅、ゴッダードには二千磅を支拂つたが、此時の入場料は八千磅に達した。これは入場料としては從來のレコードを破つた大儲けで、彼の得意や想ふべしである。ところが、其の八千磅に次いで一躍一萬八千八百五十磅といふ記錄をつくつた。更に驚くべき事實は、彼がベケット對カーペンターの勝負を行つたときは、市民の拳闘に對する興味の最高頂期で、愈〻ホルボーン競技場に行はれたときの入場料實に三萬磅、これこそ英國に於ける興行入場料としての最高レコードである。

以上はコックランの明るい儲けた方面ばかりの記錄であるが、興行は矢張り危險な商賣であるだけに幾度か大きな缺損をした。これは神樣でない以上、人間の打算が時に的を外れるのは止むを得ないことである。彼は古いオックスフォード音樂堂の再興を始めてゐた。最初この音樂堂を移轉するに二萬五千磅を豫定してゐたのだが、それが八萬磅もかかつた。これは確に痛事であつたに違ひない。ある時はストライキが起つて豫定の儲けを棒にふつた。レヴューを興行して最初の六週間は一週千二百磅の利益を擧げつつあつたのが、一座の花形が病氣のために休演したので其の爲めに二萬磅の損害を受けた。倫敦で六つの劇を上演し、一週一萬七千五百磅の出費をしながら、それが後に一週二千磅の缺損となつた。この程度の失敗をあげたら彼の一生涯に隨分多かつたことだらう。ウンと儲けた一方には、ウンと損をして自ら悲喜劇を演じたことが幾度だつたことか、恐らく彼程變化に富んだ生活をしたもの、彼程莫大な金をつくつて、そしてそれを失ひ

しもの――興行師として彼に較ぶべきものを見出すことができないだらう。

かくて世界的一流の興行師コックランは一生涯を通じて何を得たことになるだらう。儲けた金は無くしたが――、多數の知己を得た、そして人氣を得た。その知己と人氣とが、彼を破産の憂き目から幾度も救つてくれた。彼には直接金を握ることのみが儲けたのではなく、金から見放されても人から見放されなかつた。

人から見放されないこと――、結局これこそ眞の金儲け法ではあるまいか。

人の爲めに働き通した成功者

チャールス・マッカラ卿はマンチェスターの一綿糸商會に約五十年間も支配人として働いてゐた。そして自分の一生を綿糸業に關係したことを誇りとした。

「何しろ、全世界の人類の十分の九の衣服が綿糸で造られてゐるんですからね。私は一商人として、これらの多くの人達に奉仕してゐるのだと思ふと、實に愉快でたまりません。」

彼はいつも斯ういつて自分の業を樂しみ、綿糸業を隆昌ならしめることは、或意味に於て、全人類を幸福にする所以だとも考へてゐた。

「だが、いくら商人でも初めから金儲けのことなぞを考へてはいけない、先づ國民の幸福を第一の目的として、自分のできるだけのことを盡すことだ。それは人としての義務である」

彼の一著書の中にも明かにかう書いてゐる。それは言葉としては誰でもいひ得ることなのだが實行するところに眞箇の價値がある。彼はよく其の言を行にした。そこに彼の偉さがあり、酬いられるところがあつたのだ。

何を彼は、綿糸業の爲めに盡したか。

マンチエスターの綿糸貿易が極度に沈滯したときであつた。その局面打開の對策として綿糸をリバプールから鐵道でマンチェスターまで運搬する代りに、直接マンチェスターの破止場まで大船が來航し得るやうな運河を開鑿する計畫が樹てられた。そして遂に一千八百八十二年から同九十四年までかかつて運河開通の工事を終了し、日ならずして第一回の棉花を積載せる貨物船が、アメリカから直接マンチェスターに入港した。この結果六年を經すして運河經由に依る棉花の輸

入は激増し、六萬四千梱より五十五萬梱になつた。

一千九百二年の頃、アメリカ綿布が東京市場を侵略し始めたので、マンチェスター、否、全ランカシァの綿糸業者は全く閑散となつた時であつた。マッカラは逸早くその事情を調査して見ると、アメリカの運賃が英國の約半分であることが判つた。これは獨り綿糸業者のみの打撃ではなく、支那と交通貿易をしてゐる凡ての製造業者の一大脅威であつた。

「これは大變な發見だ」

マッカラは驚き且つ喜んだ。それから間もなく代表者を派遣してリバプールの船運業者と交渉せしめ、一ケ月と經たぬ中に、リバプールから支那までの運賃は、紐育から支那までの運賃と同額とした。

一九〇三年、アメリカ人のサレと稱するものが棉花の買占めを始めたので、生棉は途方もなく暴騰し、爲めにランカシァの製造業者は絶望のあまり工場を閉鎖しようとした。

「マッラカの意見を訊いてみることだね」

期せずして彼の智慧を借りることに一決し、製造業者の代表が、彼マッラカを訪ねて善後策を相談したものだ。

彼はいろいろと智慧を絞つた末、

「工場を閉鎖する代りに、工場繰業時間を短縮したら何うか」

と、提案した。そこで多くの製造業者は彼の發案に基いて、これまで一週五十五時間働いたのを四十時間に短縮したので、生棉の需要は減じ、從つて其の價格も下落し、辛うじて買占めから生ずる苦痛を救ふことができた。

「買占めなんて途方もないことをやる。今後も買占めの豫防策を講じないと困るがー」

と、考へぬいた末が「英國紡績組合聯盟」の組織となつた。後來この聯盟の活動が、一には印度棉花事業の助長促進をなし、次でアメリカ棉花の助長奬勵となつて、それぞれ多大の効果を奏した。次で萬國農業組合を設立して小麥耕作の助長奬勵に世界を駈けずり廻つた。そして功により一九一一年に准男爵となつた。白耳義、西班牙、獨逸、伊太利、佛蘭西の各國から名譽ある勳章を貰つた。

彼の一生涯を通觀すると、矢張り彼の云つた言葉の通り、國民の幸福てふことを第一の目的と

して働いたことに一貫してゐる。殊に大戰勃發當時の如き、七十歳の高齢で英國の棉花改策の爲に東奔西走し、如何なる困難事に遭遇しても責任を回避するやうなことはなかつた。この尊い奉仕が遂に名譽と富とを以て酬いられたのだ。

しかし、それには先天的に惠まれた素質をも考へねばならぬ。彼は第一に驚く程頑強な健康の所有者であつた。第二には非常に鞏固な意志の所有者であつた。第三は事物に對する公平なる考へを所有してゐたことであつた。この三つの惠まれた素質を以て、國民の奉仕の爲に働いて寧日のない生活を送つた。彼は最初から金儲けや名譽の爲めに働いたのでないだけに、自分の成功といふことに無關心であつた。

「私は成功といふことを考へたことはない。一生涯——生きてゐる間は、人の爲めに働けばよいのだ」

と、口にも云ひ、筆にも書いてゐる。

英國の人物批評家はいつてゐる。

「彼は立身せざるを得なかつたのだ、彼の如き性質を有せるものにとりては成功せざらんと欲するも得ないのである」

——と。

「彼の水難救濟事業に盡した功勞だけでも、彼は英國の第一人者たり得る——。」

——と。

彼は一綿糸商店の支配人でありながら、一方水難救濟事業に非常な熱誠を持ち、其の發達の爲めに不斷の努力をつづけたものだ。

彼は其の著書「回想錄」の中にいつてゐる。

「私が青年時代に得た計り知れぬ程尊い性質は、相手の要求を意識考慮することである。換言すれば、私の性格の中には基督教の「汝が爲さんと欲することを他人に爲せ」の教へが根深く植ゑつけられたのである」

——と。

彼の一生のどの頁を見ても、人の爲めの奉仕である。

彼、チャールス卿の知人に、彼と同じ蘇格蘭生れの故アンドリュー・カーネギーがあつた。彼

はアメリカ第一の鐵王となり巨萬の富を作つた。チャールス卿と共通した性格の持主で、後年よく其の富を活用した。エネルギーの奉仕のみでなく、富の大なる奉仕をも併せ行つた。彼にとつて富そのものは、自分の過去の奉仕生活の副産物に過ぎないと考へてゐた。金自身の爲めに金を貯蓄したのではないから、それを奉仕に費すことは當然であつたのだ。カーネギーの舊友中に鍛冶屋があつたがその鍛冶屋さんの歌に左のやうなのがある。本章チャールス卿の結論として如何にも適はしい歌であるから掲載することとする。

我々お互消えて果敢なき生物だアンドラよ、お前とわしは
お前はマーブルの浴場で身を雪ぐ私は海水でどぶんと浴びる
お前は朝食に銀の器に盛られたコーヒを召上る
私は薄いスープを角のスプーンで啜り腹一杯に鱈腹食ふ
が、どこに違ひがあらう、ねえアンドラ同じだ
空は私にとつても澄み切つてゐる雪は私に取つても美はしい
そこで私は獨りでつぶやく——金なんか要るもんかと

案外樂な苦勞なしの金儲け法

二十歳にして年俸五千弗、二十八歳にして一萬五千弗——。何といふ素晴しい給料を拂つたものだらう。貧乏な日本の經濟狀態では一寸考へられない相場である。

しかし、貰つた方では金のことなぞ考へてゐなかつたらう。ただ自分の好きな仕事を一生懸命にやつてゐる——それだけの自覺であつた。そしていつの間にか地位が進み金にも惠まれるやうになつた。

これは金儲けの方法ではないが、その結果から見て樂な、苦勞なしの金儲け法は探したつて見つかりつこはないが、事實に於てかうした始めから、こんな苦勞なしの金儲け法は探したつて見つかりつこはないが、事實に於てかうしたトントン拍子に名と實とを併せて摑んだ人もあるのだから面白いではないか。

アシフィルド卿、彼こそ二十歳にして五千弗、二十八歳にして一萬五千弗の年俸を貰つた人であつた。少年時代——彼はアルバート・ヘンリー・スタンレといつた——から彼は馬車や電車や

汽車や、さうしたスピードの速い交通機關に妙に興味を感じて、金ボタンの制服を着た馬丁や運轉手の姿が馬鹿に羨ましくてならなかつた。

「俺も運轉手になりたいな」

——と。兩親が將來牧師になれるやうに大學に入れようとしたのを斷り、十四歳の時、進んでデトロイド市の或る鐵道會社の臨時少年雇員として働くやうになつた。それは朝の七時半から夜の十時までひつきりなしに働かねばならぬ過激な勞働であつた。

しかし、アルバートには、それが好きな仕事であつた。十四の少年にしては他人目にも辛い仕事のやうに見えたが、彼には面白い遊戲でもするやうに少しの苦し味をも感じなかつた。デトロイド市が市街鐵道に電氣機關車を採用したとき、アルバートは直ちに其の工場に入り、電氣の工業的及び機械的方面を習得した。これも彼の好きな遊戲であつた。好きこそ物の上手——で、彼の優れた天品と相俟つて何時の間にか立派な器となつてゐた。それだけに出世も早く、二十歳にして年俸五千弗を給せられるやうになつた。

十四歳、始めて臨時雇員となつたときに報酬は一週五弗、それが僅に六年にして年俸五千弗、何といふ大きな驚異だらう。恐らく彼自身にしても夢想し得なかつたことだらう。若し、彼の考へが此のことに及んだとすれば、それは寧ろ

「過去六年間の精進に、自分の頭と腕が果してそれだけ進歩したらうか」

と疑問を抱いたに違ひない。いや、此の疑問を抱いて更に精進を怠らないものに、より以上の大なるものが酬いられるのであるまいか。それが一萬五千弗になつたとき、依然として彼は金のことを考へないで、自分の頭腦と手腕の進歩に考へを及ぼしたことだらう。そして同時に、少年時代から憧れてゐた交通機關の完成に向つて進んでゐることそれ自身に幸福を感じてゐたことだらう。

凡て金はかうした人の手に集まつて來るのが不思議ではないか。招かずして來る幸福、それは人生に於て最善の努力を拂ふ人にのみ惠まれるものなのだ。

彼の名譽は全米國はもとより、全歐にまでも謳はれた。倫敦の地下鐵道會社が舊式の蒸氣機關車を捨てて電化の大事業を起したとき彼はその監督として聘せられて久しぶりで生國へ歸つた。倫敦へ着いて會社の事情を調べると、會社は缺損に次ぐに缺損、利益配當は愚か社債の支拂ひす

らできない悲境に陷つてゐた。

「こりあ、いかんぞ」

彼は卽時役員總會を召集して

「私は地下鐵廣告の爲め銀行から五萬磅を借出し、その金でこれから六ケ月の間に大々的の廣告をやつて利益を收める積りだが、それが果して成功するか何うかは疑問である。しかし、今日のところ之が最善の道である。その間、私は諸君の辭表をお預りして置く。若し運わるく不成功に終つたら、その時には辭表に効力を生ぜしめることにしよう」

と諮つた。一同も之に贊成した。この背水の陣を布いたことは、それでなくても仕事そのものが生活である彼に、驚くべき緊張と努力を與へた。六ケ月後の役員會に彼から

「もう辭職の必要がなくなりました」

と報告されたときに、如何に一同のものが喜んだことだらう。彼の巨腕は、次で倫敦地下鐵、乘合自動車會社の合併を行ひ、事業は逐年繁昌する、遂に一九二七年には無慮十六億六千九百餘萬人の乘客を運輸し、その收入約一千四百萬英貨に達し、社員は平均一週四磅二志十片の俸給で約四萬人を算するに至つた。地下鐵停留場に百二十五萬英貨、乘合馬車改善に七十萬英貨を支出し、過去數年間に新線敷設、舊線改善の爲めに六百萬以上を費し、今や面目一新せる倫敦地下鐵は、實に世界の模範として推賞されるに至つた。自働階段、パワスミーター、自働廻轉乘車券發行機——これらは總てロンドン地下鐵道で最初に用ひたものである。この地下鐵使用の客車は耐火木材で建造されてゐるのも最初の試みとして誇りとしてゐる。

彼の得意の破顏が目に見えるやうだ。

世界大戰が始まつて以來、英國に對する大なる功勞は遂に華族に列せられた。

「俺の此の世に生れて來た使命は、只好きな道へ一生懸命に働くことだつた」

と、彼はそれを口癖にしてゐる。そして彼は外の何ごとをも考へないで、好きな道、交通機關の完成、交通能率の增進——に驀然に進んだ。馬車馬のやうに。

「それが成功の祕訣なのだ」

私は彼に代つて此の結論を語らねばならぬ。それは彼の酬いられたことが現實に證明してゐるからである。「好きな道に精進すること」それも矢張り一つの金儲けの方法となるのだ。

名譽以上富以上の大道を歩む

「何ごとによらず、世の爲め人の爲めを先に考へる人は必ず酬いられる」

私は古今東西の偉人傳を讀む毎にかうした考へを強める。言ひ換へれば「世を利し、人を利するものは、必ず自らを利するものだ」といふことである。玆に說く英國の鋼鐵王ロバート・ヘッドフィルド卿の如き、まさに其の代表的の一人だといつてよい。

彼の父は英國のシッフィルドに於ける鐵の大家で有名な事業家である。從つて彼は「儲ける」といふ考へに疎かつた。食ふに心配のない家庭の人であつただけに、食ふ爲めに、儲ける爲めに働かねばならぬ彼でなかつた。こんな境遇の彼が、遂に滿俺鋼の發明者として有名となり、英國最大の鐵及び鋼鐵業者として覇を握るに至つたことは、確實に「酬いられた人」として滿腔の敬意を表せずにゐられない。それは言ふ迄もなく、父の事業そのものが世の爲め、人の爲めの仕事であることを會得してゐたからである。彼が十六歲になつた時父は

「お前は今後大學まで行く氣か、それとも學校生活をやめて實務に就く積りか」

と訊いたとき、彼は卽座に實務に就くことを答へ、後間もなく父の經營せる實驗所に入つて實務に就いたのである。大學を卒業することが唯一の理想である我國の青年男女に比べて、ヘッドフィルドの此の一言、此の一行が、何を私達に敎へたことだらう。

當時——一千八百七十六年頃は。シッイフィルドには非常に美事な鋼鐵ができたが、其の製法に至つては極めて幼稚であつた。恐らくシッイフィルドの製鋼家の誰もが

「もつと科學的に製造する方法がないか」

と考へてゐただらう。ヘッドフィルドも父の實驗所で、

「俺が一つ發明してみよう」

と研究を積んだに違ひない。

「この發明の完成が、どんなに製鋼界を利することだらう」

と考へ續けたに違ひない。この利他心、この研究心が、特に鋼鐵を製するに際し滿俺の影響を考へ始めた。滿俺は鐵屬ではあるが鍊鐵よりも一層黑く、鋼鐵及び硝子を傷つける程の金屬中最

高の硬度を有してゐる。ここにヒントを得て彼は新しい製鋼法を考へ始めたのである。

それが十二年後に遂に成功した。一千八百八十八年にこの研究が發表せられ、斯界の權威者たちから百パーセントの讃辭を浴びせられた。

ヘッドフィルドは、日本にもよく有り勝ちな單に實驗所の人で、融通の利かない一發明家かといふと、決して左にあらず、彼は科學者であると同時に大なる事業家であつた。然し誰かが彼へッドフィルドに

「あなたは大なる科學者です」

「あなたは大なる事業家です」

といふものがあつたら、彼は

「否、世の爲め人の爲めを考へるだけの人間です」と答へたに違ひはない。そして三十歳の若年で父の全事業のチェアマンとなり、總支配人の椅子に就いた。これは決して親の光りではない、彼の父は我子の手腕を信じ、彼へヘッドフィルドは我手腕を信じて其の椅子についたもので、所謂靈犀相通するものがあつたからである。彼はここでも人の爲めを考へた。そして當時の勞働時間一日十時間、土曜の半休も日曜の休みもない制度を、彼は卒先して自分の工場だけを一週四十八時間以内を聲明し之を實施した。多くの勞勞者が如何に感謝の念を以て彼を迎へたことだらう。

「有難い有難い」

この感謝の念が期せずして勞働者だちの能率を增進せしめた。其他勞働者の幸福增進の幾多の制度が實施せられた。斯くて父の會社の成績は日一日と伸びて行つた。そしてここでは立派な事業家としての手腕を發揮したのである。

歐洲大戰中、英國と佛國とは彼の會社から大なる恩惠を受けた。更に彼は人の爲めにヘッドフィルド病院を千九百十四年に、ボーロ附近に設立し、大戰中は各地を巡回し、その施療を受けたものは實に一萬六千人以上に及んだとのことである。この繁忙裡にも彼は絕えず製鋼に對する發明を怠らなかつた。その最近の發明にかかる「ロー・ヒステリセズ鋼」の如きは其の一つで、アメリカの故カーネギーが彼にベッセマー賞を贈呈するに際し

「ヘッドフィルドは斯界に於て嶄然頭角を現し、彼の業蹟は燦として四海に輝き、東西を通じて前古其の比を見ない。吾人は彼の面前に額き、仰ぎて畏敬の念に堪へない」

と、最高級の讃辭を呈してゐる。否、既に彼は一九〇九年に男爵を授けられてゐる。かくは功成り名を遂げても、功の爲めに、名の爲めに働いたのではない彼は、世の爲め人の爲めを考へて一日として寧日がなかつた。鐵道の改善なども其の考へた仕事の一つであつた。かうした彼の一生を通觀すると、眞箇に彼が一歩一歩を「世の爲めに、人の爲めに」を考へて進んで行つた足取りが頗る鮮かに見えるではないか。それによつて酬いられた名譽や富は、彼にとつては些々たる副産物に過ぎないものだらう。

私達は彼の一生によつて教へらるるものは非常に多い。彼は絶えず成功の謎を解く問題を與へてゐる。鍵を與へてゐる。が、自ら答案を明示してゐない。しかし、彼の酬いられた其のことが正確なる答案であることは、事實が證明してゐるから誰もが首肯せずにゐられないだらう。

一躍世界の大船主となつた男

一九二九年四月八日世界海運史上空前の拂下げといはれる彼の現下最大の巨船レヴィアザン號を含む十一隻二二〇、〇〇〇噸を自分の所有にして世界を驚かした人はボール・W・チャップマンである。

ボール・W・チャップマンとは抑も如何なる人物か。今こそ知名人名辭書に彼の名を見出せるであらうが、そのときは千に一人も彼のことを知つたものはなかつた。彼は全く彗星の如くに現れたのである。

アメリカ政府が運航を持てあましたアメリカン・マーチャント・ラインの五隻とユナイテッド・ステーツ・ラインの六隻との外借地權や店所代を合せ一六、八二〇、〇〇〇弗（しかも此金額は時價の何分の一にしか當つてゐない）を以て拂下げを受け、その後引續き多數の船舶を購入し新造して現に押しも押されもせぬ一流船舶會社となつて英獨の巨豪を向ふに廻し此不況ながらボロを出さぬのみか兎も角利益を擧げる彼の發展は正に現代の一大偉觀である。

ボール・W・チャップマンは今年五十一歳である、一八八〇年十二月の生れ。イリノイズのヂャーシイヴィルといふ片田舎に生れた。親父は極めて溫厚篤實の紳士で辯護士として盛名を馳せた。此父の感化がチャップマン全家族を今日あらしめたのだといはれる。チャップマンはかうい

つてゐる。

「私は青年時代から克己の精神を注込まれたので、それから離れることはできなかつた。私の身邊に何か氣のきいたことがあつたら、例へば此ネクタイやネクタイ止めのやうなものでもそれは妻か他の自分の家族かが私の爲めに買つてくれたもので私は金を使ふのが大嫌ひなのです」

此人が世界最大のレヴィアザン號を不見轉で買つたのである。船を買つてから一ケ月後に初めて船といふものに乘つた彼の如きは珍しいといはねばなるまい。

十八のとき住み慣れた故郷を後にシカゴに出た。何を爲すべきやは素より判らなかつた。何等定まつた方針がなかつたのである。偶〻彼は算術が好きで小學校でもいつも優秀な成績を收めてゐたのでフトできるなら銀行家になりたいと思つた。

遠しい人生の沸る坩堝それはシカゴである。ニューヨークとボストンにあるハリス・フォビス商會の前身たるW・W・ハリス商會に彼は向ふ一ケ年一週七弗で雇はれることとなつた。一八九九年の七月十日といふのがその日附であつた。

ハリス商會に勤續すること十有三年といふから彼は雇主の御意に入つたことは明かだ。此時同商會から有價證券賣買の代理權を引受けたので一九一二年退店の上獨立開業した。それ迄の彼の生活は列車から列車へであつて一年の中八ケ月乃至十ケ月シカゴを離れて旅をしたといふから驚く。

彼は豫て將來を洞察してゐたのであらう。官吏はいふに及ばず銀行家、商人其他各方面の投資家と知己の關係を結んだ。近代生活に於ての成功の二つの要素は何といつても世才と交際とであるといつた人があるが確かに至言である。

此世に於て人は如何にせば成功するか、幾多樹木の種子は風のまにまに運ばれ幸に生を得て榮えるものもある、が不幸にして死滅の運命にあるものもある。チャップマンはその雇主フランク・ハリスが、

「成功は完全にその人の環境に適合することである。青年チャップマンは夙に人生の此謎を解き既に大人物となる宿命を荷つたといはねばならぬ。

彼は倦むといふことを知らない、底知れぬ商才を內に藏してゐる精力絶倫の働き家と彼は人に

評判された。然し彼が告白してゐるやうに彼が都市公債の米國隨一の敏捷極まりない買手として名を得る迄は特に惠まれた機會はなかつたのである。

ハリス商會を辭してシカゴのモンロー街に自分の名の店を開業して都市公債と公益事業株を取扱つてから彼も人並みの苦勞をした。七轉八倒の苦を嘗めた。けれども成功の度合が遙かに失敗の上にあつたのは今日チャップマン商會が有價證券業及び投資業者としてシカゴの外ボストン、ピッツバーグ、ニュウオルリーンズ、セントルイス、ミネアポリス、シャトル、サンフランシスコ其他を含み國內主要の都市に店所を持つてゐるのでも明かである。

しかも此百姓の家に生れ殆ど海といふものを知らず無論海の知識を持ち合せない彼が唯將來の見込みだけから最高の入札をして船舶經營に乘出した彼の意氣は誠に壯といはねばならぬ。

偉人傑士の傳記を見ると其少年時代夙くも鋭鋒を現し既に一廉の練達者の如く記してゐるものが多いが是は誇張に過ぎた眉唾物である。大いに割引して聞かねばならぬ。此の世の中は妥協と艱難と惡運とそれから失敗とが充滿してゐるのだ。或ものが他のものより輕い失敗で濟むものもあるが多くはよくやるやうに若い時は得てして失敗の後更に深い泥の中に落ち込むものである。

「私が何故、十一隻の船を買つたか。何故外國航路に從事する定期航路を發達させる爲めに數千萬弗の金を投資しようと決心したか。それはかうだ。二十年前政府からホボケン、マヌファクチュアラース鐵道を購入した。此小鐵道は九ゲ所で大幹線と連絡し凡ゆる國內の重要鐵道、船渠、並にホボケンに繋泊する船舶と連鎖してゐる。ホボケンはヂャーシイ側でニューヨークに面接するが、此處は自動車又は艀舟を用ゐず列車から船舶へ直接貨物を積卸すことのできる便利を有するニューヨーク隨一の箇所である。私は將來此處が船舶交通の中心となることを確信して疑はなかつた。ユーナイテッド・ステーツ・ラインに着眼したのは決して偶然ではない積りである。

「かういふのが人間として一生にやる所の道順であらう。一つのものに注意した結果それに關聯した他のものに注意することになる。私と雖も一生での大きな當て込みを希はぬではないが畢竟吾々はよく知り拔いた簡單なことに拘泥してゐるのが人生ではなからうか」

人はチャップマンを見ると何だこんな人かと思ふであらう。けれども彼と話して見ると隨分ハツキリした上品な冗談もいふ。殆ど無氣力な動作。妥協性があつて自信に滿ちてゐる彼の如き性格にして初めて人を信賴させ、その信用を持ちつづけることができるのだ。大きくて恰好のよい

頭と廣く高く秀でた額それは一見印象深い彼の感じである。

彼と語るにつけ辯舌が爽やかに熱してくる。その上鋭い所がある。彼は問はるればムダなく答へ屢〻打解けた引例や比喩を用ゐる。縦横の警句を吐く。彼の特質が明かな證據である。

銀行家や海運界の大立物とならずに學校の先生になつたとしても必ずや米國大學有數の英語教授たり得たらうと或人は彼を評する。

今少し彼の人格を研究してみよう。打解けて愛想よく家庭的の氣安さを感じさせるのが彼の人に對する印象である。彼の簡易生活法、正直、淡白が然らしめるのであつて見榮坊、虚僞、己惚は彼の最も嫌惡する所である。彼が、知友の間で友義と忠實と信賴とを博してゐるのは當然である。凡ゆる點に亙り彼の考へ方は此頃の都市生活者とは大いに趣を異にする。そこには多分にイリノイスの黒い土の香りが匂ふのを否めない。

「左樣、克己は立派なものです。其價値は己を忘れしめ且凡ゆる人々の考へ方を以て他の人々を實際指導し得るからである。他に何かこれと同じ價値があらう、金か？　私はまた金として金の値打を評價したことが無い。私も私達の同業者も金は一つの道具と見てゐる。何か仕事をするのに金がいる、金は何か知ら實を結ぶ。金は我々の生活と勞力とを活かすに必要な媒介者となつて人々、社會並に全世界の福利と進歩との爲めに積極的に仕事を成就せしむるに過ぎない」

海運以外で彼は如何なる事業に關係してゐるか。彼は前後何の氣構へも無く卒直に資本金八〇、〇〇〇弗のコムミュニティ・ウォーター・サービス會社が自分の持會社であることを表明する。此會社が各州に多數の店所を設けて莫大な收益を擧げてゐることは周知のことである。其外彼の關係する諸會社は多數の公共事業、例へばガス、電話、橋梁、其他航空事業がある。ニューヂャーシイに面する港灣の重要な鍵を握る延長十四哩のホボケン鐵道を所有することは前に述べた。航空業に對しては彼が有名な青年飛行技師ヴィンセント・ジェー・バーネリと協力して二十二人乘り九〇呎の單葉旅客飛行機を製作した。バーネリは今年三十七歳、獨特の飛行機製作に從事して既に十五年になる。此飛行機は立派に成功し翔破能力四〇〇〇哩、ガソリン搭載量一〇〇ガロン、時速一六五哩（最強一七五哩）といふ優秀な性能を示してゐる。チャップマンは此の成功を眼のあたり見た。彼は今後飛行機利用の廣汎なることとその能力とを認めて自ら交通界に新時代を作る新人を以て任じてゐるのだ。ノルド・ドイッチェの巨船オイローパ號やブレーメン號が郵

便發着時間短縮の爲め船載の飛行機を以て海陸連絡をしてゐる。チャップマンはこれにつきては別に確たる意見は述べてゐないが彼の計畫によれば海と空との旅行は將來易々たるものである。彼が優秀な飛行機製作に着手した眞意が那邊にあるやは察するに難くない。

翻つて彼の日常をみよう。

「慰安と社交だつて？　私はどちらにも不向だ。今までも左樣だが今後も社交界に出ようなどとは思はない。社交人としての私は今後も相不變無用の人たることを希望する。社交には精力と時間とを多分に要する。これが斷然惡い。一週五晩もつきあつて多忙な仕事をやり得るものは一人も無いのだ。だからどんな內密のクラブにも集りにも加入したことが無い」

然らば金だけか。彼が彼の目的でないことは曩に明言した處だ。それなら人生の慰安と幸福とを彼は何處から得るか。又彼の言を聞く。

「人は常に爲さんと欲することに就いて爲してゐるものだと私は考へる。少くとも私は左樣だ。此世に生れて來たいかとは誰も問ふまい。またいつ私が死ぬかと問はれようとも考へない。私は恰も單調で些しも興味のない踏み車にのつかつて足を踏みつづけてゐるのだ。人が此の世に生れ出で、そして働かせる爲めばかりでない、眞の愛情と信賴とによつて勵まされる時一體人は他に何をすることができようか。

人が三十年も商賣に從事した後猶依然他の人の信賴を裏切らずにこれを維持する外に何をすることがあらう。刻苦勉勵それが凡てだ。我々は習慣に生きる、だから私がたとへそれから免れようとしても離れ切ることはできぬであらう。若し他の商賣人が正直に自分の感情を表現するならば私は信ずる」

確かに卒直でサツパリした氣性である。彼は蒲柳の質であるが見た所は健康の肖像そのものである。身長五呎八吋、體重は百三十封度內外。運動は止むを得ないより以上多くはしない、それでゐて未だ嘗て病床に呻吟したことはないから不思議だ。食べものは滋養物など一切喰はぬ、不斷は極く僅かしか食べぬがそれでも食ふときはウンと食ふ。食物には一體無頓着で特に好きらひがない。先づ云つてみれば生きる爲めに食ひ、食ふ爲めに生きる部類の一人。淡白な食物を欲しいだけ食ふのだ。睡眠はどの位といふと彼は言下に斷言した。

私は毎晩死ぬ！

まだ五十そこそこの健康で精力家であるチャップマンが常に積極的に物を考へその實行に邁進してゐるのは彼の悉くの行動がそれを證する。ユナイテッド・ステーツ・ライン獲得後の彼の海運に對やる精進振りは見る人が驚いてゐる。しかも彼は自分の確信した仕事をやるに十分な富がある。今や目覺しく活動はしてゐるが彼は彼の經歷中で最も難事なそして凡ゆる產業でも最も難事な海運業に踏み込んでゐる。彼は果して今まで通り成功の榮冠を贏ち得るか。

人は彼の閱歷からその將來まだまだ有望だと見るものが多い。

世界一の土地建物ブローカー

ユー・エス・スチールの社長エルバート・ゲーリーがニューヨークに於て世界第一の土地建物賣買ブローカーと知られてゐるジョセフ・デエイを呼びにやつた。

「ジョー君、スチール社も自分の建物を作らなければならないと思ふんだ」

ゲーリーの居る室の窓からは輻輳する大小の船舶と並行する幾條かの埠頭のあるハドソン河が手にとるやうに眺められた。人を鼓舞するに足る眺めである。そのことが二人にとつて重要な事實なのである。

ゲーリーはいふのである。彼の買ひたい建物はこれと同じやうな眺めを有するかそれとも港を一眸の中に收め得るものでなければならない。

「どうだね、さういふやうな建物はあるかね」

デエイは有望らしいものは片ツ端から物色して或は地圖を作り、又は圖面を作り、更に見積りを作つた。だが實際はこれ等のものが少しも役に立たなかつたのだ。彼はゲーリーに彼の希望する條件を滿足させる建物を世話せねばならぬ。

無論デエイの頭には抑もの初めから有望な建物の一として現にゲーリーがゐる室があり、スチール會社がある建物そのものが畫かれてあつた。

ーリーが氣に入つた眺めはそれ以外には無いのだ。所がゲーリーは隣りのもつと新しい近代的な建物が欲しいといふ。そして他の若い幹部連も全く買ひたがつてをるといつてゐる。

しかも有望な建物はいくらも外にある。多くて困るほどある。デエイは一日も早く此商談を手

仕舞したかつた。

其處でゲーリーは再びデエイを呼びにやつた。デエイはすぐさま云つた。「此スチール會社のあるエムパイヤー・ビルが一番適當なのだからこれを買ひなさい」と勸めた。「隣りの建物から見える景色は直に新しい建物の蔭になつて眺めが遮ぎられて了ふ。然し此エムパイヤー・ビルからの眺めは當分變らない」と。

此勸めに對しゲーリーは直に反對した。彼はムキになつて反對論をし始めエムパイヤー・ビルだつてそんなに安全ではないと說いた。

デエイは反駁をせず默つて聞きながら素早く考を廻らした。「ゲーリーの腹の中はどういふのだらう?」

さうだ、今こそ判る、ゲーリーはエムパイヤー・ビルに死ぬほどの執着を持つてゐるのだ。さう見極めると彼の推理は少しも違はないのだ。法律家が法律を以て諄々と推理して行くが如くである。いろいろ批評の裏をサグつて見る。例へば今の建物が木造で粗末であることなどは小さな枝葉の問題である。しかもどれもこれもゲーリーその人の腹から出たものではなくて若い幹部達の意見であることがハツキリし出した。

デエイはゲーリーのいふことを聞き流しながら強硬に反對する所の此の建物を其の實は買ひ度がつてゐて自分の手の中を見せないんだといふことに急に氣がついた。

遂にデエイは此建物が一番であることを說き圖星をさすに至つてゲーリーは初めて話を切つてつた。

二人は暫時默りこくつて窓外を眺めた。彼等の眼は相變らずゲーリーがいつも愛着する眺めに見入つてゐた。

デエイは此時のことを人に次のやうに語つてゐる。

「ほんたうをいふとゲーリーさん。外にはありませんよ。あなたが最初にニューヨークにゐらつしやつた時の御店はどこでしたネ?」

ゲーリーはしばし答へなかつたが

「それは云ふ迄もなく此の建物さ」

私も一寸默つてから語を次いで云つた

「スチール會社はどこで成立したのでした？」

またも彼の沈默が中に入つた。

「此處だよ、今君と二人で座つてゐる此建物の此室なのだ」

彼は落ちついてさう語る。——私はもう何もいふ必要が無かつた。——そのときの五分間は二人にとつては十五分間位に信じられた。——二人一緒に丸つきり默まりで腰を下してじつと窓外の景色に見とれてゐた。終ひに一寸本心をブチまけるやうにゲーリーは云ふのだつた。店の若い人達の殆ど凡てのものは此建物から引越したいらしい。だが此建物は我々の家なのだ。私達は此處で生れ此處で生長して來たのだ。此處こそ踏み止まる所ではあるまいか」

半時間にして此の商談はケリがついた。別に賣り勸めたのではない。數字を羅列したのでもない、斷乎天下一品の手腕がさうさせたのだ。デエイはゲーリーの腹の底を一々つき上げたのだ。デエイは此押しかくされた本心を煽り立てた。丁度樵夫が種火を以て焚火にするにも似た巧みさがあるではないか。

デエイから云へば自分の主張を棄ててゲーリーの本心を突止めようとしたからこそできたのである。

ゲーリーから云へばどつちにしようかと一寸戸惑ひしてゐたのである。卽ちエムパイヤー・ビルを棄てる氣も無いことはないが一面に止まつてゐたいといふ氣もある。エムパイヤーに止まりたいといふ理由はゲーリーには判らんでも少くも我々には了解できる。住み慣れて見なれた眺めを持つ建物は彼の分身でもあるのだ。彼がどうして成功したといふ記念でもある。つまり彼の自我の片鱗である。

ゲーリーが他へ移りたいといふのもまた容易に首肯かれる。少くとも我々には、此點微妙な心理は曰く言ひ難しであるがそして或は彼の子供らしさを笑ふかも知れないがゲーリーにして見れば若い自分の相棒等の反對を押し通したくはないからである。

ゲーリーはデエイの巧みな技倆で此難かしい二つの縺れを見事に解いたものといふべきであらう。

言葉の魔法使シュワッブ氏

ジェー・ピイアモント・モルガンがカーネギー鋼鐵會社の買收談を拒絶した。

カーネギー自身もまた曩に擧げたエルバー・ゲーリーも此大買收を勸めたのだつたが二人とも失敗した。カーネギーなどは幾度も斷られた方である。

手古摺つたカーネギーは此會社の社長であるチャールス・シュワッブに對モルガン交涉の役を一任した。シュワッブはモルガンが此鋼鐵會社を買はぬのは米國第一の財閥として大間違ひであることを信ぜしめようと決心した。

シュワッブときたらまたとても遣手である。彼はモルガンが否でも應でも傾聽を强ひられるやうな同業者の集會の席上を目指して出かけた。そこで彼は大して世間でも珍らしくない單純な術策を弄したのである。

多數の銀行業者はモルガンの爲め晩餐會を催しモルガンの出席を求めるのが常例である。シュワッブはかういふ席を選ぶ。彼は鋼鐵業將來の發展を歷々見る如く大風呂敷を擴げてるので人々は垂涎を禁じ得ない。特にこれこれといふ會社の名を擧げるのでは無論ない。別にモルガン一人に聞かせようといふ言葉でもない。彼は唯產業の完全なる統制は諸會社を合同しなければできぬことを切言したのであつた。——彼によれば合同こそ能率を高め競爭を無くし企業者に巨利を齎すものだといふのである。彼の胸三寸から迸る雄辯は人心に喰ひ入る。誰も反對するものが無い。食事が終るとモルガンは彼を探し出して若りにいろんな質問を浴せた。話し半ばにしてシュワッブはカーネギー工場を四九二・〇〇〇・〇〇〇弗で賣渡した。此取引は誰も知つてる通りゲーリーを管理委員長としシュワッブを社長とする十億弗のユー・エス・スチールの組織の根柢となつたのだ。

かくしてシュワッブは老巧のモルガンの野望を掻き立てて儲かるぞと煽りつけ史上未曾有の寶買談を成立させたのである。

我々個人の場合にも此呼吸はあて嵌る。テント旅行をしようとて友達を誘ふにも唯山の野宿はいいといふよりも、青空の下に點在する綠の湖沼を渡つて鬱蒼たる大森林の傍にテントを組み草

の香を聞きながら青葉の床に眠るのはどうだといふ風に持ちかける。御馳走はお腹の空いた時に焚火で料理して食ふのだ。思つても愉快ではないか。こんな風に話しかければいかな旅行ぎらひも食指が動くであらう。言葉の綾といふものは恐ろしい魔力を持つてゐるものである。シュワッブのやり方がそれである。モルガン目的に見て來たやうに未來を語つて見せる。モルガンはそれを聞きながらソロバンを彈いてゐたに違ひない。

誰でも好ましい慾望を刺戟する事によつて人々を自分の思ひ通りに操ることができるものだ。話は別のことだがナポレオンの如きはかう云ふ技術にかけては天才であつた。

二十五歳で彼はフランスの新司令官となつてボロ服を着、食に飢えてゐるイタリー軍を率ゐたが食物と衣服を利用して彼は兵士達にかう呼びかけた。

「兵士等よ、諸君は今窮乏してゐる——けれども余は諸君を世界で最も物資の豐富な所へつれて行くつもりである。諸君の前には多くの都がある。物資の豐かな村があるのだ」と。

間もなくミランを占領した時今度は全く別の調子に改めた、もう衣服や食物の事を言はない。言葉はいと壯重を加へる。

「母國に於て歴史を作る人といはれる諸子よ、諸子はもう直ぎ歸鄉するであらうが近所の人々は彼はイタリーに出征せる軍人の一人であると稱讃するであらう」と。

ナポレオン傳記者エミル・ドヴィッヒは此イタリー遠征を回顧し彼の成功の半はかうした言葉の力によつて成就されたものだといつてをる。

ナポレオンはいつもさうであつた。エヂプト遠征に際しピラミッドの下に戰ひながら彼は兵士を激勵した。

「千古に輝く卿等英雄よ」と。

モスコーの傷ましき占領に際してもまだ天は彼を見棄てはしなかつた。彼は云つてをる。

「物資の豐かな冬も暖い土地が諸君を待つてゐる。もう一息踏ん張れ、諸君はぢき歸鄉できるのだぞ」

お客に敎はりながら大を爲す

ジョン・ワナメーカーといへば。商人ならもう誰でも知つてるほど有名な百貨店主だ。少し人に知られてゐない點を語つて彼の成功の偶然でないことを確めよう。

ワナメーカーが年齒二十三といふ若さを以てフィラデルフィヤの六丁目とマーケート街の角に初めて開業したとき

「見てゐろ！　數ケ月經たぬ中に破產して了ふから」

といふ讓想が旺んに行はれたものである。十四の時メッセンヂャー・ボーイとして社會に打つて出た彼が刻苦勉勵して貯蓄した金も友人の助力を加へて纔かに商品を仕入れるにしか足りなかつた。全く以て心細い資本であつた。時も時南北戰爭勃發の時であつたのだ。だが彼の成功は人も知る如く甚だ目ざましいものだ。

諸君も御存知の通りワナメーカーは米國でも異數の大商人となつたのである。彼は抑もの出發から嶄新で今まで誰もやつたものがないといふやうな方法を後から後からと考へてこれを實行し先輩を一蹴し去る爲めに邁進した。彼は次から次へ新規の販賣政策を行つたが其都度物議の種となつたが、知らず、それが當時のあらゆる商法を根柢から覆すことにならうとは。

彼の祕訣は頗る簡單である。彼は唯お客樣の氣に入るやうな新しい方法を發見することに腐心した迄である。

新しい考へが浮ぶと彼はもうそれを離さない。そしてお客樣から考へて其の善惡を批判する。あらゆる商品に一つの値段！　そしてどの品物にも正札をつける——これワナメーカーが從來の風習を破つた商策の中で最も著名なものの一である。値切るのは當時あたり前であつた。だが客は果してそれを好んでゐるかといふと否決してさうではない。それをワナメーカーが證明した客は正札つきの商品に信賴して買つて行くからだ。

客を尊べ！　これがワナメーカーの一生の根本である。彼の店が後日尨大極まりなく輪奐の美を誇るやうに大きくなつてからも丁度シカゴのマーシャル・フィエルドの如く彼は毎日店內を駈けずり廻つてお客樣に接近し商品を手にとつて見て一々それに就ての苦情を聞いてゐる。

需要者のメドを狙つて大成功

數年前鐵道會社に勤務して一時間三十仙をとつてゐた人が大實業界に打つて出た。

一九二四年新しいクライスラー自動車が世に出て急速に人氣を集中した。此成功によつて發明者クライスラーは一躍アメリカ一流の自動車會社社長となつた。

ウォルダー・ピイ・クライスラーは如何にして一躍人氣を得るやうな自動車を造つたか。

彼自身にしてみれば至極簡單な法式を踏んだ迄である。即ちどんな人にでも使はれるものは結局大衆のものにも使はれるといふことである。若し多數の需要者を滿足せしめてゐる企業家が或場合に唯一人の需要者と見ることができれば大したものだとクライスラーは云つてをるが正に其通りである。

若し普通の男女を俎上に載せそしてこの男女の思想が自分達の商賣をうまくやる上に重大なものだと考へるならば需要者を滿足させるのは實に大變なことだ。

一人の男、一人の女の立場から一つの商賣を編み出すことは大變なことなのだ。商賣の死生を左右する大問題なのだ。嚴密にいふと一人の人の滿足ではない。一人一人の個性の滿足をいふのだ。

其處でウォルター・クライスラーは一般の消費者の利害欲望を周到に研究した。彼は代表的の男、代表的の女を彼の俎上に拉して來た。そしてこの人々らの見地に立つて彼等の虚榮！　彼等の德義！　彼等の習慣を眺め彼は自動車を設計しそして製造と販賣との方針を樹てた。

ウォルター・クライスラーは多數の人々を相手とするものは商人でも先生でも、晩餐後挨拶をするものでも、大臣でも銀行家でも記者でも編輯者でも製造家でもすべて皆これから相手としようとする人々に就ては大して深く考へることなく唯漠然としたとりとめもない繪を自己の前に展開することが多いのだといふことを知つてゐる。事實百萬千萬の人々は一體何を求めてゐるか、などといふことをハツキリ考へることは誰にだつてできるものではないのだ。結果はどうかといふと我々は他の人々の利害欲望に左右されるのではなくて寧ろ自分自身に左右され易いといふことだ。

さうしようとしないのは自分が左右しようしようとする一般大衆を馬鹿にすることといはねばならない。斯の如き誤りから避ける爲めにクライスラーは凡ゆる決定の標點を作つた。――一人の代表的男子、一人の代表的女子、そして彼の目的とする大衆の代表者として考へた。

是は獨りクライスラーの場合のみに止まらない。立派な廣告作家なら此位の心掛はしてゐる。卽ち自分が呼び掛けようとする代表的の人々を現す爲めに自分の卓上に色々の寫眞を並べる。例へばゴム靴を喜ぶ農夫、高い化粧品を喜ぶ婦人、事務用品を買ふ男子といつた工合である。そして自分のではない他の一般の人々の慾望利害といふものに焦點を作ることに努めるものである。

婦人の趣味へ嵌り込んで成功

レディス・ホーム・ヂャーナルといへば世界で一番發行部數（凡そ三百萬）の多いアメリカの婦人雜誌。値段一〇仙で日本の金で二十錢位、それに新聞の二分の一で二百頁もあるといふ大業なものである。その上に内容は一流名士又は作家の粒選りのものばかりを載せてゐるから讀者はアメリカばかりではない、少し氣の利いた讀書人なら必ずしも婦人ならずとも愛讀するといつたやうな立派な週刊雜誌である

雜誌の發行者であり兼て社長であるのがサイラス・カーチスといふ人。フーヴァーやフォードは知られてゐても我國でいへば講談社の社長野間清治氏のやうに此人は知られてゐないやうだ、カーチス氏は此雜誌の外これも世界有數の週刊新聞といつてもこれも二百頁もあらうといふ尨大なサタデー・イヴニング・ポストの社長であり發行者である。彼はどうして雜誌の出版屋として成功したか。年少にして人生の機微を會得したのがその端緒であるから又かと思つても汲めども盡せないのが機會を摑むコツではあるまいか。

メーン州ポートランド在の雜貨屋を經營してとつおいつ成功を企んでゐた彼が不圖思ひついたのが出版屋。レディス・ホーム・ヂャーナルがそれであつた。

けれども駈出しの彼に一顧するものが無い。得體のしれない駄雜誌だとてんから見縊つて有名な作家は執筆してくれない。當時文壇で最も賞出してゐたのが女流作家ルイザ・エム・アルコット孃であつたが彼女など全く鼻もひつかけないといふ態たらくであつた。ところが物はどうしたハズミで引つくり返るか判らぬもの、此第一の拒否作家たる彼女が先づ第一に彼の爲めに執筆することにならうとは。

カーチスは種々工夫を凝らした後彼女が非常に肝煎りしてゐる孤兒院のあることを發見したの

たつた。そこで作家取り入れに腐心してゐた彼はハタと膝を打ち卽座にアルコット孃に手紙を書いた。若し御寄稿して戴けるなら一頁に對し孃の世話する孤兒院に金一百弗を支拂ひませうとの文言であつた。事は彼女が折角骨を折つてゐる孤兒院のことである。彼女の食指が動いたのも無理ではない。カーテスは到頭彼女から一文を寄稿して貰つた。直に約束の一百弗の小切手を送つたのはいふ迄もない。

ルイザ・アルコット孃の道樂の本態をうまく利用し孃の歡心を買ふやうな申出でをしたのが巧みに効を奏し遂に今まで三文雜誌と罵られたものを高く押上げ著名の作家をして好感を抱かしめたのが彼の成功の因である。思へば出版屋としての、のるか反るかの岐路がこんな些細な分別によつて成功への轉機となつたことではある。

人の利己主義へ附入る祕訣は

ウィリアム・ランドルフ・ハーストといへばハハアあれかと首肯する所謂黃色新聞王、一時は排日問題で隨分邦人の怨みを買つてをる、彼のハーストが一時途方に暮れたことがある。それは新聞經營のことに關してであるがなるほど今こそ二十三大新聞と十二大雜誌の社長兼發行者として彼を見るが話は彼が出世の端緒についた初期のことである。彼がサン・フランシスコで一新聞を發行してゐたときのことである。自分の新聞の漫畫に行き詰りを感じ氣がくさくさしてゐた。折柄來てゐたのが有名な漫畫家ナストである。彼は早速彼を捉へて食事を共にしながら極めて打解けて語り合ふた。

彼は自分の新聞の漫畫をやめてナストにやらさせたいと考へたのであるが腹に一物ある彼はなかなか本音を吐かぬ。ハーストの胸中の一大計畫といふのは其頃多數の轢死者を頻出させる市內各自動車會社贈賄の爲め義俠の十字軍を起すといふのであつた。彼はそれをナストに語つた。

ナストはスツカリ彼の言に贊同した。

然らばどうしてハーストは此大漫畫家から一大傑作を入手することができたか。彼はナストと食事を共にしながら口を極めてナストの漫畫を賞讃した。

「ナスト君！　見給へ此頃の自動車の暴狀を！　無邪氣な子供等を殺傷する機械のやうに感じな

いかネ。俺は時々自動車を見ると氣のせいか運轉臺に乘つてゐるのは人でなくて髑髏のやうに見えてしようがない。此髑髏が樂しく遊んでゐる子供等の中を無造作に歩んで轢き倒して行くさまは話に聞くクリシナの偶像を載せた車に轢かれれば極樂に行けるといつたやうな途方もない暴狀だ」

「ハーストさん、そりあいい繪になりますよ、一つ私に書かして見ませんか」

ナストの憤慨は一通りでなかつた、といふのは彼がその夜夜通しかかつて漫畫として傑作と許される一枚のグラフィックを翌日持込んだのでも判る。此の繪は市中の自動車會社を率制しハーストの下に屈服せしめるほどの力があつたのである。

ハーストの斯くの如き奇才縱橫は誠に一々枚擧に遑がないほど以後續出してゐる。

かくて彼は大して勞することなく今までのまづい漫畫を廢することができたのみならず他人をして徹夜の努力を敢行させたのである。

ナストが全く自分のものだと信ずる所の新しい着想の爲めに終夜頑張つたのであるが、ハーストは自分が斯うしたいと思ふ腹の底をナストに氣づかれずにソツと移植して口を拭つてゐた譯である。見やうによつては甚だ人を食つた狡い遣方ではある。

だが、かういふ遣方は屢〻用ゐる奥の手である。人間といふものは妙なもので自分が云ひ出したものでこれが自分の主張だと裏書されるとそれを實現する爲めには凡ゆる努力を惜まないものなのだ。だから一番いいのはそれはステキな妙案だといふことを保證して煽ることである。此祕訣は上役に對してであらうと下級のものに對してであらうと當て嵌る、人の我儘とはこれを指すのだ。人の我儘を尊重しその人の我を通させるといふことは或場合重要なことが此例でもハツキリ判る。

人の我儘を利用して儲けた男

ボールドウィン機關車工場といへば世界でも聞えた大工場である。此大工場がたかがアイルランド生れの女子一人の爲めに二進も三進も行かなかつたことがある。

それといふのが此工場が當時駈出しの社員サミュエル・ヴォークレーン——此人は現在同工場

の社長となつてゐる——提出の案によつてもつと事務部を擴張する爲めに新に敷地を購入し其處に新しい建物を建てることに決めたのである。所が困つたことに今まで其處に住んでゐた百人に上る借家人が立退請求に應じない。それといふが今云つたアイルランド生れの女丈夫が先導となつて借家人を糾合して立退きを拒み彼女の指揮に從つて動かざる山の如しといふ有樣。

「私達は至急新築工場を始めねばならぬけれどもあの人達を立退かせるには法廷で爭つても數ケ月かかるでせう。それに我社はさういふことは絶對にしたくない。强ひて敵を作る必要が無いのです。で、どうでせう、私に立退かせることを一任さしてくれませんか」

彼はさう申し出て許しを受けるや疾風迅雷文字通り借家人を片つぱしから移轉せしめた。だが肝腎の本尊が頑張つてゐるのではと愈〻主力を彼女に注ぐこととなつた。彼がトントントンと階段を昇つて行くと彼女は屋根裏に近い薄暗い階段にドツカと腰を下してゐた。

「何しにやつて來たんだい」

と、嚙みつくやうに喚いた。丁度彼は汚い麥藁帽を冠りこれも汚いシヤツを普通の勞働者がするやうに袖を上の方に捲り上げてゐた。

彼はカンカンに怒つてゐる彼女を尻眼にかけながら彼女と並んで腰を下した。

「こんな所に座つてさ、何もせずによくまあ辛抱できたものだ。あんたのやうな女が先頭に立つてもつといい他所に引越すやうに話してくれたら、譯はないんだが！」

かういつたヴォークレーンの二言三言が、彼女にどう響いたか。彼女は降參して了つたのである。それからといふもの隣り近所を遮二無二說き廻つて到頭全部の借家人を立退かして了つた。しかもその費用は彼が豫期した半額で濟んだのだ。

「御手傳ひできたと思ふと私も安心です」

これが說服運動が一段落して彼の所へやつて來た時の挨拶である。

ヴォークレーンは誤解してではあるが此頑固な女子を見事に操つた。彼は別に變つた方法を用ゐた譯でも何でも無い。ただそれだけ。しかも此手は奏効神の如く著しかつたのである。頑强な昨日の敵、今日は忽ち熱心な味方になつたのだ。

廿六で會計監査部長のアリン

最近の某日シカゴに於ける商賈人の會合の席上驚くべき出世譚が披露された。やはり人心收攬のコツを會得した一例である。

僅か二十六のスタンレイ・アリン君が簿記係から一躍人も知るナショナル・キャッシレヂスター（金錢登錄器）會社の會計監査部長に榮達したといふのである。三十五歳にして財務部長となつた——現にその職にある——といふのである。

アリン君の成功は他の人なら何とも思はない些細なことに原因するのだから世の中は面白いのだ。で彼自らいふ所を聞くことにする。

「私が會計部に勤めてゐた小僧時代此會社の創立者であるジョーン・パターソンがやつて來て何かかう手つとり早く會社の財政狀態を一覽したいものだと云つたのです。會社の經濟といつたらなかなか老大な數字の群それも新聞の倍ほどもあるのが幾枚も幾枚もあるといふ仕末、一見して判ることは難しいので社長がさういふ希望を述べたのです。所が會計部內のものは誰も取合うとしない、否むしろパターソンのいふことが途方も無い無茶だと一笑し去る有樣だつたのです」

アリン君は然しさうは思はない、で彼は彼獨特の頭を働かして此途方もない報告書を作りこれをパターソンに提出した。

パターソンは彼を呼び迎へて此報告書を中心に彼と論議して見た。これがアリン君の眞の首途となつたのだ。パターソンが此の一つの小さい問題に就て彼と會談したことが彼が知遇を得る直接の原因なのである。

突如彼は幾多の先輩同僚を擢でて此の大會社の部長級に昇進したのだ。彼の才能が自由に發揮されるやうになつた。彼の登龍はまこと昇天の概があつた。

アリン君は社長が欲するものを提供することによつて存在を認められた。

我々の中で上級者から何か求められた場合敢て苦勞してまでその希望を滿足させようと努める人が幾人あるであらう。

三十前に百萬長者デイモック

アントニイ・デイモックは先刻から銀行の頭取に會はうとて待つてゐる。

彼は一枚の株券を頭取に賣りつけようとしてゐるのである。

十八の青年彼はフィリップ・アカデミー出のホヤホヤ。父は新英蘭州の貧しい牧師であつた。

だが彼は自分の行かうとする途筋に立つてはゐたのである。

三年後彼は紐育株式取引所員に選擧されたが若年の故を以て辭退せねばならなかつた。三十になるかならずに彼は百萬長者になつて了つた。

だが話は元に返る。そのときデイモックはまだ一週一弗五〇仙しか貰へぬ端たブローカーで、丁度使ひあるきに過ぎなかつた。彼は主人は此の若者はなかなか拔目がないと目をかけてゐたが或時鐵道株を賣らして見たのである。

さてこそ彼がシチー・バンク・オブ・ニューヨークの頭取に會つて何事か話さうとしてゐるこ

とが判つた。頭取モーゼス・テーラーが自分の持つてゐる此鐵道株に執心してゐることは慧眼のデイモック夙に看破する所であつた。

だが彼は此著名な頭取に向つて何をいはうとしてゐるのだらう。

「私があの人の所へ行くと彼は傍の人に向つて口早に要領をいひなさい、要領ですぞといつてそれから自分の頭を振つて其男を去らせたのです。そして此方へお出でといふ風に點頭いたのでした。私はそこで例の株券を手早く机の上に載せながらいひました。

「九十七弗ー」

テーラー頭取は私をおかしな奴が來たものだと云ふ風に眺めてゐましたが自分の小切手帳をとりよせるとかう尋ねたのです。

「御名前は？」

「無名氏」

所要の金額を書き込むと彼はまた問ふのです。

「無名氏は君にいくら口錢をくれるかね」

「二分五厘」

「それぢや少いよ、歸つたらさう云ひ給へ、俺は君に一分出さう、その人にも一分出させるがいい、若しその人が出さなければやつて來給へ俺が拂はう」

デイモックは株を賣つた。それより大事なことは頭取の個人的注意を牽いたことである。これが立派な友情の土臺となつたからである。

彼は活眼を開いて活耳を働かせた御蔭で以て此大銀行家の腦中に小さくこそはあるが強く印象した。此テーラーといふ人は不思議なほど百事萬端簡潔を尊んだ。彼は言葉を賤しんだ。其後テーラーとの取引に於ては彼デイモックは全く簡潔一點張りで押通し決してムダをいはなかつた。

テーラーはまんまとデイモックに一杯喰はされたのである。迎合されたのである。彼は今も此青年と取引し彼に多大の援助を與へてゐる。デイモックが、多數の年長者に取入つた要領は概ね右のやうな極造作もない手段である。

馬鹿扱にされて喜んだ販賣部長

餘り前のことではない。或販賣部長が自分の輩下の一販賣員からとても猛烈な攻撃の手紙を受けとつた。此販賣員のいふ所によると彼は自分等の大將をチツとも尊敬もせねば好きもしない、のみならずとても販賣部長としてなつてゐない、寧ろ販賣部長の助手君が彼の地位に代るべきだといふ論鋒である。どの文言も激越な調子で書いてある。先づ驚くべき手紙なのである。然しほんたうに驚くべきことは手紙そのものではなくてむしろその手紙によつて起つた出來事である。

此販賣部長といふのがトーマス・ベックその人で現にコリヤース・ウィークリー誌の出版主であり件の手紙で稱讃された人がブルース・バートンといふ彼の女房役である。

所で此手紙實はベックへ宛てられたものではなくバートンに宛てられたものであつたのだがベックは少しもそれに氣がつかなかつた。といふのが此二人はいつもお互ひに商賣上の手紙を開

き合つて見るのが常であつたからで、其日は偶々バートンが外出したときの事であつたのだ。

此劇景極まる手紙を讀んでからベックは直に雇主であるコリヤース・ウィークリー其他の持主であるジョセフ・ビー・ナップの許へ行つた。

「どうです隨分私は名販賣部長といへるでせう。私は自分よりもできるといはれる助手を拾ひ上げたのですよ」

ベックのかうした言葉には微塵嫉妬の響きがない。實に朗かなものだ。態とらしい見榮でもない。——自分の助手がとても評判がいい、それが如實に證明されたことを心から喜ぶだけである。

こんな風にトーマス・ベックは一つの煉瓦を一つの花把に化して了ふ度量があつた。

世に成功者と謳はれる人々には、得てかういふ方針で行つた人が少くない。確に祕訣の一である。

ナンセンスで就職戰に勝つた男

ジョン・ヘイズ・ハムモンドは長年に亙り世界第一の技師といはれた人だ。彼が就職第一歩の挿話は今でいふナンセンスのやうな匂ひがする。

イエール大學を出て彼は數年間ドイツのフライスベルグに留學した。そして今職を求めにやつて來たのである。ハムモンドは新聞王ウィリアム・ランドルフ・ハーストの父である上院議員ハーストに當つたのである。此の人は西部第一の礦主といはれた人であつた。

ハムモンドは見事に就職戰線を突破した。しかもちつとばかり味なことをやつた。

といふのは此上院議員なかなかのヘンコツな石頭の實地出の人であつたから學校で教へられた理論を振り廻す技師に對しては些も敬意を拂はなかつた。

「俺が第一好かんのは君がフライスベルグに行つてゐたといふ事だ。何にもならない理論で大事な頭をブチこわして了つたからだ。俺は皮手袋をはめて仕事をするやうな技師は大嫌ひなのだ」

とブツキラ棒にいふのである。

「物は相談です、後生ですから親父に內密にして下されば僕はあなたに打明けることがあるのですが」

「よろしい、云つて御覽ー」

「僕はドイツへ行きは行つたが何た一つ勉強しやしなかつたのです」

「明日から出勤してくれ給へ」

と上院議員は即座に彼を就職させた。彼がハムモンドのいふことを信じたかつて。そんなことは問題ではないのだ。

問題は此トテツもない僻見にブツかつて見事にそれをもさうした奇智が屢〻現はれた。商賣人はこれを暖簾に腕押し式の商法といつてゐる。

不意の反對に遭つたときそれを巧みに切抜ける祕訣はよしんばそれが承服し難いことであつてもその人の見方を尊重する態度に出るに限るものだ。商賣人には殊に此コツが大切だ。損して得とれといふのが正にそれである。

だから商賣人ばかりではない。悧巧な人は誰でも反對に會ふとできる限り相手の意見を尊重し妥協の點を見出すに努め具體化することを尊ぶ。

一體甲が隨喜してありがたがるほどのものも乙にとつては何の役にも立たぬといふのが人生には屢〻なのである。ハムモンドが上院議員ハーストの僻見に遭遇したのはその一例に過ぎない。

貨殖全集第十一卷
貨殖百物語
定價金一圓三十錢

昭和六年七月十五日印刷
昭和六年七月二十日發行

著作者　谷孫六
東京市日本橋區呉服橋二ノ五

發行者　神田豐穗
東京丁數町區土手三番町二十九番地

印刷所　春秋社印刷部
東京市日本橋區呉服橋二ノ五

發行所　株式會社　春秋社
振替東京二四八六一
電話日本橋(24)自二一六七
至二一六九

次回配本は

壹萬圓物語

—貯金利殖の話—

壹萬圓の生立

—壹萬圓物語の一節—

壹圓の金から

私は壹萬圓の紙幣束です。しかも未だ誰の所有ともつかず、日本銀行の金庫の中に、寢苦しい轉寢をして居る一萬圓です。世間の人達はどれほど私を期待して居るか知れません。私も早く明るい世間へ出て、みなさんの喜ぶ顔を拜見したいのです、けれども私は却々出て行かれません。それと云ふのは、私を招び寄せやうとするみなさんの手續きが悪いからです。徒らに焦せつたり雲のやうな空想で漫然と欲しがつたりして居て下すつたのでは、どんなに私だけ藻掻いたとて出て行かれる筈はありません。

私は淋しい籠の鳥です、一日も早くみなさんの懷ろへ飛んで行きたいのです。と云つてお互に招びたい行きたいとだけ考へて居たのでは、いつまで經つたつてお逢ひすることは出來ません。